

は じ め に

変動性、不確実性、複雑性、曖昧性が高く、将来の予測が困難な混沌とした現代社会を子どもたちがたくましく、しなやかに、こころ豊かに、人間らしく生き抜くためには、考える基礎となる力や自ら考え解決しようとする能力に加えて非認知能力の育成が求められます。

本年報は、加西市の教育基本理念『郷土を愛し 豊かに未来を拓く 人づくり』の実現を目指し、総合教育センターが令和7年度に取り組んできた事業等を振り返り、まとめ、検証し、次年度の更なる充実に資することを願って刊行するものです。

当センターは、平成23年4月に加西市教育研修所と加西市青少年センターを統合し本年度で15年目を迎えました。本市における教育推進施設として、研修講座の企画・運営、今日的な教育課題の研究と喫緊の課題への対応、発達支援、不登校対策、教育相談、生徒指導、家庭支援等、幅広い事業を実施しています。

本年度は「ニーズによりセンターの存在意義を確認し、『学校の応援団』となるよう業務に向かう」をスローガンとし、事業を展開し、支援の方策等を探って参りました。教育推進分野においては、教職員の資質・指導力向上に向け、研修観の転換を図りながら学校現場のニーズに応えた研修講座を実施しました。開催方法も対面、オンライン、アーカイブ方式など講座の内容に合わせて工夫しました。また、育成支援分野においては、指導主事、警察OB、校長OB、スクールソーシャルワーカー(SSW)、臨床心理士、臨床発達心理士、弁護士等による「学校サポートチーム」を機能させ、学校・家庭の支援に努めました。発達支援では、児童生徒のソーシャルスキルトレーニングや環境調整を含めた学級経営の助言、問題行動等の未然防止・早期対応等の学校支援に努めました。課題である不登校に対しては、教育支援センター「ふれあいホーム」と全中学校の校内フリースクールに加え、4小学校に校内サポートルームを開室し、不登校児童生徒の支援に努めました。SSWが学校と連携して家庭と学校と関係機関をつなぎ、子どもや家庭に対し継続して支援できる体制を整えました。

当センターは、教育の今日的課題の多くを担っています。そのことを肝に銘じ、学校現場の「縁の下での力持ち」的存在でありたいと思います。子どもたちが未来を生き抜くために必要な力を育成する取組を推進していく所存です。今後も、時代を超えて大切にしたい教育の「不易」の部分を持続しながら、時代の流れに応じた「流行」の部分に対応できるよう、学校・家庭・地域の支援に努めて参ります。

結びに、これまで心強いご支援とご指導をいただきました関係者の皆様、そして、講師先生の皆様に心から感謝とお礼を申し上げます。今後とも当センターの事業につきまして、より一層のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和8年3月

加西市立総合教育センター

所長 三 村 尚 彦

目 次

I	令和7年度事業概要	1
II	教育推進	
1	研修講座	5
2	自主研究活動グループ	8
3	I C T教育	9
4	教育図書（資料）収集・提供	12
5	学校を核とした地域連携促進	15
III	育成支援	
1	健全育成	19
2	不登校支援	31
3	発達支援	35
4	教育相談	40
5	青少年育成	42
IV	参考資料	
1	研修講座報告	45
2	インターネットリーフレット	55

I 令和7年度事業概要

1 本市の「教育の重点」と事業の関連性

本市では、第3期加西教育プラン（加西市教育振興基本計画）（令和3年5月策定）に基づき、令和7年度「教育の重点」を作成し教育の一層の充実と振興を図った。当センターにおいても「教育の重点」の基本方針の実現を目指した。



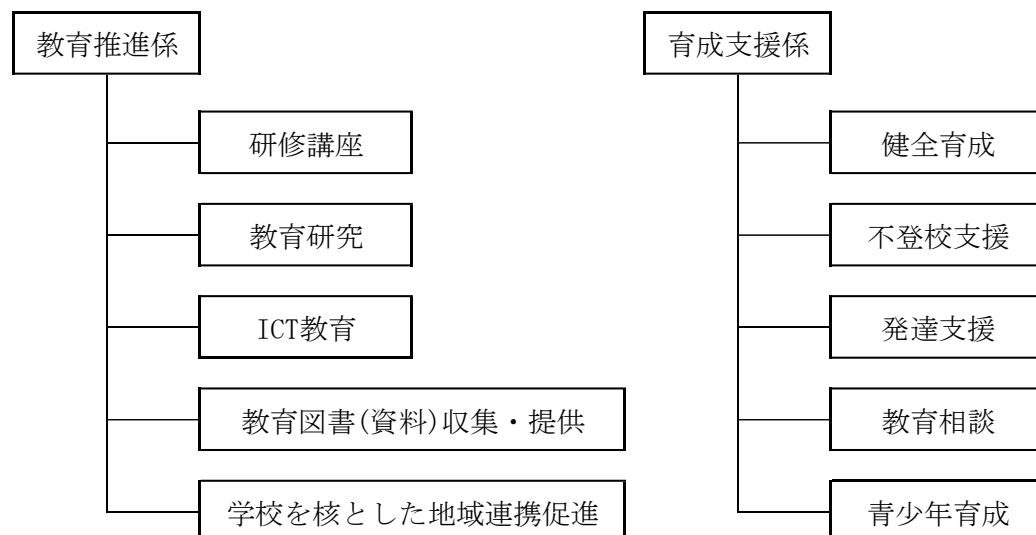
【基本方針】主体的に自立しようとする子どもの教育の充実

- ◇ 学ぶ喜びを知り、持続可能な社会の造り手を育成します
 - ・「勉強が分かる」「勉強が面白い」と思える授業づくり
 - ・1人1台端末の活用
 - ・すべての児童生徒の可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」
 - ・特別な支援を要する園児児童生徒の特性を的確に把握
 - ・「切れ目のない特別支援教育」の充実
- ◇ 児童生徒の成長を支える学びの場を充実します
 - ・教職員の資質能力の向上⇒研修講座の充実
 - 兵庫県教員資質向上指標
 - キャリアステージ
 - 喫緊の課題
 - 教職員のニーズ
 - ・教育図書の実用、活用促進
 - ・家庭の教育力の向上
- ◇ 児童生徒理解を基盤とした生徒指導体制を推進します
 - ・子どもの内面理解に基づく生徒指導の充実
 - ・児童生徒一人一人の特性や状況に合った対応と支援
 - ・いじめの未然防止、いじめ問題への迅速かつ組織的な対応
 - ・不登校児童生徒の支援
- ◇ 地域とともにある学校づくりを推進します
 - ・コミュニティ・スクールによる「地域とともにある学校」づくりの推進
 - ・地域人材を活用した多様な学びによる3C次世代型人材の育成

2 事業概要

（1）組織と事業内容

当センターは、次の組織図のとおり教育推進係と育成支援係の2係を設け、事業を体系化して実施している。



(2) 重点事業

昨年度の事業を検証し、本年度は下記の4つを重点事業として取り組んだ。

ア 教職員の指導力向上（研修講座の充実・研修機会の拡充）

「学校現場のニーズに合った実効性のある研修講座」を目指し、昨年度末の「研修講座に係る教職員アンケート」の結果を踏まえ、43講座を開設した。教職員のキャリアステージや専門分野に応じた講座、ICT利活用促進や生成AIの利活用等の新しい教育に向けた講座、教師力向上講座、授業改善や発達支援といった喫緊の教育課題に向けた講座、教科担当者会とコラボレーションした講座等を計画・実施した。対面式を中心としながらオンラインやアーカイブ、ハイブリッドと開催方法も工夫した。

また、教職員にとって、総合教育センター所蔵図書がより実用的なものとなるよう購入希望図書調査を行い、本年度は176冊の新規図書を購入した。教職員の自己研鑽と利便性向上のため、「移動図書館」を実施した。

イ 生徒指導力向上と体制構築（いじめ防止の取組の推進）

「加西市子どもいじめ問題対策審議会」において、事例検討を行い、普段から「尊厳を尊重する指導」の大切さを再認識し、いじめ防止と早期発見・組織的対応について協議した。また、「いじめ対応加西市ネットワーク会議」において、具体的な事例をもとに指導の検証を行うなど、「いじめ見逃しゼロ」を目指した実践的な研修を行った。いじめ防止啓発への継続した取組として、いじめ防止運動作品展の実施、いじめ防止啓発チラシや健全育成カレンダー・クリアファイルの作成及び非行防止・健全育成キャンペーンでの配布等を行った。

多様化・複雑化・困難化する生徒指導に対して、学校・警察・総合教育センター連絡会（学・警・総）等で、情報交換、研修にも取り組んだ。

ウ 不登校に関する未然防止対策と支援の推進

「ふれあいホーム」において、体験活動等を通し、個々の状況や特性に応じた学校復帰や進学に向けて計画的な支援を行った。また、多様な学びと居場所の提供として全中学校の校内フリースクールの設置に加えて4小学校に校内サポートルームを開室し、不登校児童生徒支援に努めた。

S S Wが各校生徒指導委員会、不登校対策委員会等に出席し、学校やスクールカウンセラー（S C）と情報共有・連携を図るなど、学校サポートチームとしての役割を強化した。さらに「すまいるりんくネットワーク連絡会」により、不登校児童生徒についてアセスメントや情報共有等を行い、長期的な展望のもとにそれぞれの専門分野の関わりで、義務教育終了後のひきこもり予防の推進に努めた。

エ 児童生徒の特性や状況にあった発達支援の推進

発達支援アドバイザーによる発達検査や発達に関する教育相談を実施し、児童生徒のソーシャルスキルトレーニングや保護者に対して家庭での支援方法の助言を行った。また、発達支援アドバイザーが学校園訪問をし、園児、児童生徒のアセスメントや情報共有を行い、教職員に対し支援方法や学校園環境調整の助言を行った。「発達支援プログラム」では、個々の特性に応じたトレーニングを計画、実施した。学校園や保護者との連絡会や面談を通して、情報共有や支援方法について確認するとともに、講師を招聘してペアレントトレーニング等の保護者研修も実施して学校・保護者のニーズに応えた。

（３）総合教育センター運営委員会

本委員会は、総合教育センター条例施行規則に基づいて設置しており、委員は7名で構成している。本年度は下記のとおり2回の委員会を開催した。

回数	日 時	場所
第1回	令和7年7月11日（金）15：00 ～ 16：30	総合教育センター
第2回	令和8年3月6日（金）15：00 ～ 16：30	総合教育センター

第1回の委員会では、事業概要について説明するとともに、本年度重点事業と位置づけた事業内容や昨年度の課題を踏まえた取組等について説明し、意見をいただいた。

第2回の委員会では、本年度の事業報告と成果・課題等について説明し、来年度に向けた事業等について意見をいただいた。

委員会においては、各委員からの要望や様々な視点からの率直な意見をいただき、各事業についての点検に加え、今後の取組について多くの示唆を得ることができた。

（４）次年度の重点事業

本年度の事業を検証し、次年度は次の事業を「重点事業」と位置づけ、更に充実した事業を展開し、センター機能を高めたい。

ア 教育推進

- ・ 教職員研修講座の更なる充実

専門性と実践的指導力の向上（教職員の指導力向上）

基礎・基本を中心とした学力向上にむけた授業力向上（「加西 BASE」）

リーディングスキルトレーニング研修講座

いじめや不登校の未然防止にもつながる学級経営力向上（安全安心な学級）

キャリアステージに応じた教職員研修講座

ニーズに応えた研修講座（新しい教育、喫緊の課題）

- ・ 学校を核とした地域連携促進事業の充実

イ 育成支援

- ・ 加西市いじめ防止条例、基本方針に基づく取組の推進
- ・ インターネット等使用に関する家庭への啓発（保護者研修の推進）
- ・ 生徒指導に係る教職員の研修（相談、学・警・総、いじめ対応加西市NW会議）
- ・ 不登校支援体制の見直しと充実
 - 校内支援体制の見直し（未然防止と早期対応の強化、具体的対応）
 - ふれあいホーム・校内フリースクール・校内サポートルームの充実
 - 不登校児童支援員増員
 - 1人1台端末を用いた「心の健康観察」
 - 民間フリースクールに通う児童生徒の家庭への支援
- ・ 発達支援に係る早期支援
- ・ 発達支援に係る教職員の研修（相談、スキルアップ）
- ・ 虐待やひきこもり等の予防と家庭支援（SSW、加西市こどもサポートセンター等との連携）

Ⅱ 教育推進

教育推進係は、研修講座の開設や教育研究等、次の5つの事業を推進した。

- ① 教職員の研修講座に関すること
- ② 教育研究に関すること
- ③ I C T教育の推進に関すること
- ④ 教育図書（資料）の収集・提供に関すること
- ⑤ 学校を核とした地域連携促進に関すること

1 研修講座

教職員の資質・能力等の向上をねらいとして、本年度も、

- A 対象となる教職員が受講する研修講座
- B 対象となる教職員と希望する教職員が受講する研修講座
- C 希望する教職員が受講する研修講座
- D 特別講座

の4種類を設け、43 講座を開設した。

昨年度末に実施した「研修講座に係る教職員アンケート」結果を十分に考慮して計画した。内容としては、教職員の資質能力の向上を目的としたキャリアステージや専門分野に応じた講座、教科担当者会とコラボレーションした教科指導講座を中心に、I C T活用や特別支援教育に関する講座を開設した。また、今年度は生成A I の利活用やセキュリティポリシーに関する特別講座も充実させた。

実施にあたっては、小・中・特別支援学校教職員はもちろん、公立だけでなく私立を含めたこども園教職員等幅広く参加できるように配慮した。

また、必要に応じてオンラインやアーカイブ形式の研修講座も開設するなど、より多くの教職員が受講できるように環境設定を工夫した。



【教育講演会】

(1) 講座開設内容

A 対象となる教職員が受講する研修講座（11 講座）

	講 座 名	講 師（所属）	期日	場 所	参加数
1	教育講演会 ※ハ	宮口 幸治 (立命館大学教授)	7/30	加西市健康福祉会館	286
2	新任教員研修（1）	学校教育課 指導主事	6/12	日吉小学校	17
3	新任教員研修（2）		8/7	北条東小学校	28
4	新任教員研修（3）		10/7	加西特別支援学校	17
5	新任教員研修（4）		10/9	加西特別支援学校	10
6	若手教員研修	青田 晋平 (メキシコ合衆国グアナファト日本人学校【宇仁小学校在籍】主幹教諭)	9/11	総合教育センター	21
7	中堅教員研修	本玉 義人 (元加西市立小学校長)	9/30	加西市民会館	29
8	ベテラン教員研修	當山 清実 (兵庫教育大学大学院教授)	11/10	総合教育センター	30
9	教育経営	菅野 恭介 (加西市教育長)	8/1	加西市民会館	36
10	管理職研修	新井 肇 (関西外国語大学教授)	9/2	総合教育センター	31
11	事務職員研修	加藤 真由美 (整理収納アドバイザー)	8/18	総合教育センター	18

B 対象となる教職員と希望する教職員が受講する研修講座（14 講座）

12	加西っ子の学びセミナー	國野 大樹 (学校教育課 主任指導主事)	1 / 23	総合教育センター	34
13	授業改善実践 (1)	山内 敏男 (兵庫教育大学教授)	7 / 28	総合教育センター	23
14	授業改善実践 (2)	大西 慎也 (神戸学院大学教授)	7 / 28	総合教育センター	28
15	ジョリーフォニックス研修 (1)	山下 桂世子 (ジョリーフォニックス公式トレーナー兼ジョリーグラマー公式トレーナー)	8 / 4	総合教育センター	23
16	ジョリーフォニックス研修 (2)	山下 桂世子 (ジョリーフォニックス公式トレーナー兼ジョリーグラマー公式トレーナー)	8 / 5	総合教育センター	16
17	教科指導 (国語)	阿部 秀高 (森ノ宮医療大学教授)	7 / 2	九会小学校	37
18	教科指導 (算数)	加藤 久恵 (兵庫教育大学教授)	9 / 10	富田小学校	29
19	教科指導 (図工)	高見 雅博 (一般社団法人示現会兵庫支部長)	7 / 28	北条小学校	37
20	教科指導 (数学)	岡部 恭幸 (神戸大学教授)	10 / 14	善防中学校	19
21	教科指導 (理科)	永長 英夫 (元加西市立中学校教諭)	2 / 17	北条中学校	
22	教科指導 (保健体育)	飯尾 太一 (総合教育センター指導主事)	9 / 10	北条中学校	12
23	教科指導 (外国語・英語)	市内全外国語指導助手 (ALT) (ボーダーリンク)	8 / 26	総合教育センター	37
24	小学校道徳授業実践	杉中 康平 (四天王寺大学教授)	11 / 21	下里小学校	30
25	中学校道徳授業実践	谷田 増幸 (兵庫教育大学教授)	10 / 15	泉中学校	34

C 希望する教職員が受講する研修講座（13 講座）

26	教師力向上研修(1)	中山 芳一 (All HERO's 合同会社代表)	8 / 1	加西市民会館	29
27	教師力向上研修(2) ※兵庫教育大学連携講座	真田 穰人 (兵庫教育大学教授)	8 / 6	加西市民会館	18
28	学力向上研修	葛原 祥太 (葛原学習研究所所長)	7 / 31	総合教育センター	21
29	生徒指導	新井 肇 (関西外国語大学教授)	12 / 12	総合教育センター	13
30	Google Workspace 実践 ～初級編～ ※オ	須藤 雄亮 (株式会社エージェント)	7 / 24	総合教育センター	20
31	Google Workspace 実践 ～中級編～	佐藤根 拓海 (株式会社ストリートスマート)	8 / 8	総合教育センター	15
32	Google Workspace 実践 ～上級編～	森本 敦史 (株式会社ストリートスマート)	8 / 26	総合教育センター	17
33	特別支援教育研修(1)	堀尾 勝彦 (加西特別支援学校主幹教諭)	6 / 11	加西特別支援学校	41
34	特別支援教育研修(2)	三木 崇弘 (はりまこどものこころ診療所院長)	8 / 28	加西市民会館	60
35	特別支援教育研修(3)	川野 みか (ひょうご発達障害者支援センター クローバー加西ランチ相談支援員)	9 / 8	加西市民会館	45
36	児童生徒支援(1)	中川 宗英 (総合教育センター発達支援アドバイザー)	11 / 11	善防公民館	43
37	児童生徒支援(2)	大対 香奈子 (近畿大学准教授)	8 / 7	加西市民会館	52

38	幼児教育研修	佐藤 智恵 (神戸親和大学教授)	7 / 5	加西市健康福祉会館	69
----	--------	---------------------	-------	-----------	----

D 特別講座（5講座）

39	ゲートキーパー研修	北條 達人 (NPO 法人国際ビフレンダーズ大阪 自殺防止センター理事長)	9 / 4	加西市民会館	25
40	生成 AI 利活用研修（1）	松末 育美 (コニカミノルタ副部長 LinksAI 合同会社代表)	6 / 10	オンライン アーカイブ	85
41	生成 AI 利活用研修（2）	松末 育美 (コニカミノルタ副部長 LinksAI 合同会社代表)	8 / 29	オンライン アーカイブ	81
42	加西市教育情報 セキュリティポリシー研修	東郷 亮太 (加西市情報課主事)	7 / 3	オンライン アーカイブ	205
43	学校運営協議会委員研修	本玉 義人 (総合教育センター地域コーディネーター)	5 / 30	加西市民会館	36

（2）講座受講後のアンケート

講座終了ごとに、受講者にアンケートを実施した。講座の精選と内容の更なる充実を期し、受講者や学校（園）現場のニーズに適合していたか、教育（保育）実践に有益であったかの評価を求めた。結果、5段階評価で、全評価の平均は4.62で、講座への満足度が大変高いことを示している。

また、意見欄に書かれていた感想と要望や改善してほしい点の主なものは次のとおりである。

ア 感想

【講師】

- ・子どもや保護者に接する中で、直面する事例について話していただいたので、大変参考になった。講師の方の体験も交えながらだったので、分かりやすく楽しく学べた。
- ・講師先生の日々の取組や経験されたことを踏まえながら、具体的な支援を教えてください大変参考になった。
- ・講師先生のお話が大変分かりやすく、勉強になった。特に道徳授業の基本的な構成について教えていただき、発問はシンプルに、かつ補助発問や問い返しで深めていくことが心に残った。
- ・この夏の研修で一番楽しみにしていた講師だった。期待通りで、ぜひ学校の他の先生とも共有して、少しでも実践に生かしていきたいと思った。



【児童生徒支援講座②】

【内容】

- ・問題行動を起こす子ども、学習内容が定着しない子ども、人間関係がうまくとれない子どものしんどさの原因を理解し、支援することで、社会生活に適應できる能力を身に付けさせる使命が、私たち教師にはあると感じた。
- ・心マトリックスで児童の心の状態を表されていたので、すぐに使えると思った。全ての授業で主体感をもたせ、将来的に自力で判断して行動できる学力や生き方を目指した教育に感銘を受けた。
- ・「心に傘を」という話はこれから支援をしていくにあたり、心に留めておきたいと思った。これまでは自死の言葉や行為に目を向け、やめさせなければ…と思ってきたが、まずは受け止めることを大切にしていきたい。
- ・問題行動やいじめ、不登校の背景を改めて学び、私達の考え方や視点をバージョンアップしていかなければ、どんどん対応が難しくなるなど感じた。法律も改めて勉強したい。
- ・情報の適切な取り扱いについて、具体的な方法を知ることができて良かった。普段個人の端末を使っているの、気をつけていこうと思う。

- ・情報の適切な取り扱いについて、具体的な方法を知ることができて良かった。普段個人の端末を使っているので、気をつけていこうと思う。
- ・整理整頓のノウハウを実体験に基づいて分かりやすく説明してもらった。学校に帰って即実践できるような内容だったので、早速トライしてみたいと思う。
- ・振り返りの方法やレリバンスの観点から授業を見直すことができて良かった。OPPA シートは、使ってみたい。
- ・ジョリーフォニックスを教えるにあたって、音と文字だけを教えるのではなく、読み方・繋げ方も教えることの大切さを学んだ。生徒は単語の音やその意味が分かっていたとしても書く・読む技能には決して繋がらないことが分かった。

イ 意見・要望

- ・小学校の道徳授業をこども園の職員も参観することができ有難かった。もっと幼小交流となる研修をお願いしたい。
- ・今回アーカイブ視聴で受講したが、研修内容によっては、このような受講の形も大変良いと感じた。
- ・WISC 等の検査結果から見えてくる支援の仕方についての話を聞いてみたい。また、発達の段階に沿った、動作に関する支援の在り方について、系統だった話を聞いてみたい。

(3) 成果と課題

研修観の転換を図り、単なる講義型の研修から、受講者同士のグループワークや I C T 機器の操作を取り入れたより主体的、実践的に学ぶことができる研修を実施することができた。また、研修効果の高い対面型の研修を基本としながら、状況やニーズに応じてオンラインやアーカイブ視聴による研修講座も開設することができた。特に、アーカイブ視聴ができる環境を整えたことで、生成 A I 利活用研修や加西市教育情報セキュリティポリシー研修では、多くの教職員の受講につながった。

一方で、開設している講座数が充実しているため、学校によっては時期や時間帯により研修参加に負担が生じており、引き続き検討が必要である。

ア 成果

- ・現場のニーズや教育課題に応じた研修講座の充実を図ったことにより、学校現場だけではできない人材育成につながる研修機会となった。
- ・個に応じたよりきめ細かな指導を行うために、特別支援教育や児童生徒支援などインクルーシブ教育についての研修機会が十分に確保できた。
- ・I C T 機器を活用し、研修内容に応じてオンラインやアーカイブ視聴により研修できる機会を設定することができた。
- ・教科担当者会と共催することで、現場が希望する実践的な研修を市内教員に広めることができた。また、小中連携の機会とすることができた。

イ 課題

- ・研修講座の受講により、学校運営や教職員の負担が大きくならないように、できるだけ講座開設の時期、時間帯を精選する。
- ・集合型の研修とオンラインやアーカイブ視聴による研修の特性や利点をふまえながら、効率的な研修の実施や質の向上を目的とした I C T 活用をさらに促進する。
- ・教育講演会のテーマが、授業や児童生徒対応に関するものに偏りつつあるため、事務職員など教員ではない立場の受講者も聞きやすい内容を検討する。

2 自主研究活動グループ

(1) 趣旨

教職員の指導力や資質能力の向上に資するため、教職員が自主的に構成するグループの研究や研修活動を支援する。

(2) 活動支援と研修内容

本年度、希望グループなし。

3 ICT教育

(1) 概要説明

令和7年9月、GIGAスクール構想で整備された1人1台端末Chromebookが更新された。「セカンドGIGA」では、端末と高速ネットワークの基盤を最大限に活用し、教育の質的な変革を実現することを目的としている。その達成に向け、当センターでは、関係各課と連携し、機器・通信の機能やスペックの向上を図るとともに、児童生徒の「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実する取組を展開してきた。

「セカンドGIGA」の目的や学校のニーズに応じた環境整備を行ってきたことが功を奏し、目標を焦点化することで合理的かつ統一感のある推進につながっている。また、教職員のスキルも向上し、試行錯誤しつつも実効性のあるICT機器の活用場面を見出している。

一方、活用頻度が高まることにより、健康被害や著作権問題等、リスクも高まっていることも否めない。また、生成AIの利活用について、適切に使いこなす力を育てることが求められている中、教職員は活用してはいるものの研修を重ねる必要がある段階であり、児童生徒においては活用の是非を問うという状況である。

(2) ICT教育推進にあたって

活用するICT機器、アプリや機能の選定、操作能力をどのレベルまで求めるのか等、加西市のスタンダード化のために教職員間の共通理解を図った。

ア ガイドライン周知徹底

「Chromebookの活用に係るガイドライン Ver.3」の教職員への周知徹底を図った。

イ スキル指標の設定

各種アプリや機能について、習得のレベルをステップ分けした「【児童生徒用】ICTスキル指標」と「【教師用】ICTスキル指標」の2種を作成し、目標を設定している。また、習得のレベルを問うアンケートを実施して、傾向を分析し、今後の研修内容や支援の方法についての参考とした。

毎年、見直しを行い、本年度は、教師用には活用している機能を問う項目に生成AIを加えたり、児童生徒用にはタイピングスキルを問う項目を加えたりした。

ウ 各種会議開催

	会議名	参加者	目的	回数
1	情報教育推進連絡会	関係機関・小中担当校長	企画調整	随時
2	小・中・特合同情報教育担当者会	担当者・小中担当校長	協議・決定	随時
3	ICT支援員連絡会	ICT支援員	情報交換	月1回

(3) 教職員のスキルアップ

ア 総合教育センター研修講座

	講座名・研修内容	講師等
1	生成AI利活用研修(1)・(2)	松末 育美(コニカミノルタ副部長)
2	加西市教育情報 セキュリティポリシー研修	東郷 亮太(加西市情報課主事)
3	Google Workspace 実践講座 ～初級・中級・上級編～	Google 関係各社員

昨年度の振り返りをもとに、教職員のニーズに沿って実施した。

- ・授業改善を目的とし、ICT機器活用のもと、より効果的な指導方法についての研修に重点をおいた。

「Google Workspace 実践講座」は、Chromebook に搭載されているアプリの基本操作から授業実践例に至るまで、十分な時間を確保するとともに、レベルに応じた内容を対面により教授できるスタイルにした。

- ・「生成AI利活用研修」は、教職員が活用できる「Gemini」と「NotebookLM」において、操作研修をもちこみ、実践につながる内容とした。



【Google Workspace 実践講座】

イ ICT支援員によるサポート

小・中・特別支援学校 16 校に 8 名の ICT 支援員が週 1 日程度配置されている。

ICT 機器活用時に効果的な指導を展開するためのアドバイスを行うとともに、教職員の業務改善にも資することを目的としている。

- ・アプリや機器の設定等についての教職員研修やアドバイス
- ・機器操作に係る児童生徒の支援、質問や安易なトラブルの対応
- ・機器やネットワーク不調の情報課への報告
- ・活用事例の収集と紹介
- ・校務処理効率化のためのアドバイス

ウ 情報提供

蓄積してきた授業実践の資料や各種マニュアルを当センターが発信している。

- ・機器の設定やアプリの操作等、紙ベースや動画でのマニュアル作成と提示
- ・各校や各種団体が実践している事例の収集と提示
- ・近隣市町や他府県の活用事例を収集し提示
- ・加西市教育委員会のホームページに市民向けの情報を提示

(4) ハードウェア・ソフトウェアの保守と充実

関係各課と連携を図り、学校の実態とニーズを把握し、ハードウェア・ソフトウェアの保守と充実の支援にあたった。

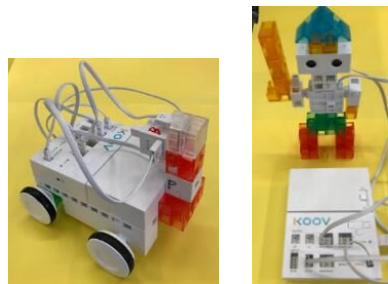
- ・ネットワーク環境が整備されていない家庭へモバイルルーターの貸出をしている。
- ・「個別最適な学び」を目的としたデジタルドリル「eライブラリ」やオンライン学習ができる「eboard」を導入した。また、「協働的な学習」を支援するホワイトボード機能を有した「FigJam」を導入し、職員研修の場も設けた。
- ・創作ブロック「加西KOOVキット」を各校に貸出をし、プログラミング教育の充実を図るとともに、年間指導計画案を作成し、ICT 支援員による授業支援体制を確立した。

(5) 成果と課題

ア 成果

- ・濫立傾向にあった同一目的のアプリを精選し統一することで、加西市内のスタンダード化につながった。
- ・教職員の共通理解のもとで作成された「Chromebook の活用に係るガイドライン Ver.3」に沿って、各校同様の運営を進行している。
- ・「【児童生徒用】ICTスキル指標」・「【教師用】ICTスキル指標」を改訂し、スキル面での目標を設定したことにより、学年に応じたスキルの育成につながっている。
- ・関係各課とICT 支援員との密な連携により、迅速にトラブル対応ができた。

- ・実践事例集や各種マニュアルの提示により、より効果的な授業実践と利活用促進の一助となった。
- ・ICT支援員1名を当センターに配置することにより、機器のトラブル対応や授業支援を、容易かつ円滑に行うことができた。
- ・年間指導計画とICT支援員の支援体制が確立されたことにより、プログラミング教材「加西KOOVキット」の活用が標準化しつつある。



【加西KOOVキット】

イ 課題

- ・教職員のアプリや機能の操作スキルは向上しつつあり、活用頻度も高まってはいるが、一層効果的な学びを探求する機運を醸成することが必要である。
- ・デジタルドリルやプレゼンテーションアプリを例に統一されたものもあるが、まだアプリや機能が濫立傾向にありスタンダード化する必要がある。
- ・活用頻度が高くなるに連れ、情報モラルの育成、著作権法の遵守、生成AIの活用、個人情報の管理、健康面への配慮等、リスクマネジメントの必要性が高まっている。

4 教育図書（資料）収集・提供

図書コーナーでは、いじめ・不登校などの生徒指導関連の本、学校経営や学級経営、小・中学校各教科の授業づくりの本、特別支援教育や幼児教育の本など 3,500 冊あまりを配架し貸出を行っている。貸出の主な対象は小・中・特別支援学校や公立こども園の教職員であるが、加西市立図書館に利用者登録すれば誰でも利用することができる。



教職員向けには、貸出希望により各学校園に本を配送する「総合教育センター移動図書館」を年 4 回（5 月、7 月、8 月、12 月）実施し、教職員の自己研鑽や研修に努めている。教職員のニーズに応え、研修の充実や有効な学習教材の整備のため、新規購入図書の希望調査を教職員に実施している。

また、毎月 12 種類の教育雑誌を購入し、配架するとともにバックナンバーの貸出も行っている。

（1）所蔵状況（令和 8 年 3 月末）

蔵書数は、図書では 176 冊を新規購入し 3 冊が寄贈され、さらに図書を整理した結果、3,581 冊となった。教育雑誌は、12 種類 144 冊を購入し、古い雑誌を整理した結果、1,260 冊となった。

ア 図書（3,581 冊）

分 類	冊 数	分 類	冊 数
生徒指導	408	特別支援教育	439
学校経営	549	学級経営	165
授業づくり	231	教師力	56
特別の教科 道徳	105	特別活動・総合的な学習の時間	86
幼児教育	147	小学校教科	595
中学校教科	253	加西市関係	45
教育関係	168	その他	334

イ 教育雑誌（1,260 冊）

教育雑誌名（出版社）	冊 数	教育雑誌名（出版社）	冊 数
兵庫教育（兵庫県教育委員会）	648	指導と評価（日本図書文化協会）	48
たのしい授業（仮説社）	48	教育（かもがわ出版）	48
道徳教育（明治図書）	72	授業力&学級経営力（明治図書）	72
月刊学校教育相談（ほんの森出版）※休刊	36	月刊生徒指導（学事出版）	48
実践みんなの特別支援教育（学研教育みらい）	48	月刊教職研修（教育開発研究所）	48
初等教育資料（東洋館出版社）	48	特別支援教育研修（東洋館出版社）	48
中等教育資料（学事出版）	48		

ウ その他

新旧の学習指導要領、全国学力・学習状況調査解説資料など文部科学省関係の資料や大学・他市町の研究紀要、県関係、市関係の資料などを分類して配架している。

ロビーでは新刊の教育雑誌を配架し閲覧できるようにしている。また、ロッカーには 340 点あまりの視聴覚資料を保管している。



□令和7年度 新規購入図書（一部抜粋）

全 176 冊

	書 名	編 著 者	出 版 社
生徒指導	「頑張れない子」をどう導くか-社会につながる学びのための見通し、目的、使命感-	宮口 幸治他	筑摩書房
	不登校「見守る」だけで大丈夫？-家庭でできる 10 秒・30 秒・3 分カウンセリング-	半田 一郎	ほんの森出版
	学校に行かなかった僕が、あのころの自分に今なら言えること	石井 しこう	大和書房
	娘がいじめをしていました （シリーズ立ち行かないわたしたち）	しろやぎ 秋吾	KADOKAWA
特別支援教育	たすく -自閉スペクトラム症の子と家族の物語-	郡司 竜平	東洋館出版社
	発達障害の子が 18 歳になるまでにしておくこと	宮尾 益知	大和出版
	発達障害・グレーゾーンの子どもの伸ばす大人、ダメにする大人	小嶋 悠紀	徳間書店
	高学歴発達障害 -エリートたちの転落と再生-	岩波 明	文藝春秋
学校経営	シン読解力 -学力と人生を決めるもうひとつの読み方-	新井 紀子	東洋経済新報社
	ルポ 誰が国語力を殺すのか	石井 光太	文藝春秋
	教師の失敗学 -「エラー」を恐れて学校が生きづらい場にならないために-	久保 賢太郎	明治図書
	チーム担任制のはじめかた-子ども真ん中の“自走自在”の学校づくり-	三浦 清孝	教育開発研究所
学級経営	「けテぶれ」学級革命！ -自分で考え、自分から動く子が育つ-	葛原 祥太	学陽書房
	マイナスからの学級経営-気になる子も引き上げる「かしこさの階段」-	熱海 康太	明治図書
	保護者「対応」をやめる -親と先生の新しい関係をつくる学級経営-	林 真未他	明治図書
	クラスみんなが成長する！対応上手な先生の 3 つの言葉かけ	樋口 万太郎	学陽書房
授業づくり	授業づくりネットワーク No. 5 0 多様性を活かす校内研修	ネットワーク編集委員会	学事出版
	授業が 1 0 0 倍楽しい！ゴールから考える授業づくり-それでも定時で帰れる-	こう	学陽書房
	子どもがつながる、学びが深まる「発問」 -「個別最適化時代」の教師の問い-	竹川 慎哉他	学事出版
幼児教育	くちぐせえほん -きみのところをつよくする-	齋藤 孝監修	日本図書センター
	未来へつなぐSTEAM保育	川村 康文他	講談社
	子ども主体の保育をつくる 5 6 の言葉	大豆生田 啓友	G a k k e n
小・中学校	小学校体育超オモシロ導入アイデア -子どもを授業にグッと引き込む！-	鈴木 一成	明治図書
	小学校 6 年生までに必要な語彙力が 1 冊でしっかり身につく本	深谷 圭助	かんき出版
	東京ぶらり謎解きさんぽ -まちの歴史を読み解く-	岡本 哲志	エクスナレッジ
教育関係	科学的根拠で子育て -教育経済学の最前線-	中室 牧子	ダイヤモンド社
	むずかしい毎日に、むづかしい話をしよう。	平熱	東洋館出版
	かしこい子がつけている圧倒的基礎学力	陰山 英男	くもん出版
	まんがで知るデジタルの学び -ICT教育のベースにあるもの-	前田 康裕	さくら社
その他	阿修羅像のひみつ 増補新版	興福寺監修	朝日新聞出版
	但馬日記 -演劇は町を変えたか-	平田 オリザ	岩波書店
	今さら聞けない睡眠の超基本 -快眠法の前に-	柳沢 正史	朝日新聞出版
	心に折れない刀を持って -ジャングリア沖縄、誕生までの挫折と成長の物語-	森岡 毅	ダイヤモンド社

	個人		団体		合計
	図書	教育雑誌	図書	教育雑誌	
4月	2		1		3
5月	4		182		186
6月			201	3	204
7月	11			3	14
8月	4		212	2	218
9月	11			6	17
10月	5		3		8
11月	1	3	1		5
12月	7		187	5	199
1月	3				3
2月	4				4
3月	10				10
合計	62	3	787	19	871

※個人は教職員を含む一般利用者。

※団体は総合教育センターを含む各小・中・特別支援学校、公立こども園。

（２）成果と課題



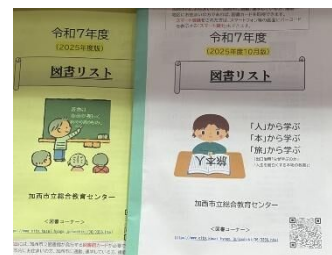
令和5年度から導入した加西市立図書館と一体化した図書管理システムにより、スマホ・タブレットからの本の検索や貸出予約、加西市立図書館の本の当センターでの受け取り・返却等が可能になり、一般利用者が図書コーナーを利用できるようになった。

「総合教育センター移動図書館」は年4回の実施が定着し、積極的に活用されるようになってきている。貸出希望が重複することもあるが、次回の移動図書館や個人貸出を活用して対応している。

また、毎月12種類の教育雑誌を購入し、特集記事の一覧を当センターホームページや教職員向けのクラウドシステム上に掲載して案内している。まだまだ僅かであるが、教育雑誌の貸出が見受けられる。

本年度も、教職員への希望調査を行い、教員の指導力向上を図る学級づくりや授業づくりの本、管理職のニーズに応える学校経営の本、いじめや不登校など生徒指導上の課題に対応する本、発達障害や特別支援教育に関する本などを積極的に購入している。新規購入図書については、図書リストを作成して各学校・園に配付したり、教職員向けに図書の紹介をしたりしている。

今後、教職員が足を運んで利用する、魅力ある図書コーナーをめざして工夫改善に努めることが重要である。教職員に対する効果的な広報活動や、研修講座受講者等当センター来訪者への本の紹介や配架の工夫など、図書コーナーのさらなる利用促進を図りたい。



5 学校を核とした地域連携促進

兵庫県教育委員会では、「地域とともにある学校」を目指して、「学校運営協議会」と「地域学校協働活動」を一体的に推進する「学校を核とした地域連携促進事業」を展開している。それを受けて、加西市教育委員会においても総合教育センターに教員OBの地域コーディネーターを2名配置し、学校運営協議会の運営と地域学校協働活動の一層の充実を目指して取組を進めている。

(1) コミュニティ・スクール

「学校運営協議会」のある学校を「コミュニティ・スクール」と呼ぶ。「コミュニティ・スクール」は、学校が地域の人々と目標やビジョンを共有し、地域が一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」へ転換するための仕組みである。

平成29年4月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が改正され、「学校運営協議会」を設置することが努力義務化された。この改正を受けて、加西市教育委員会では、令和2年度に「加西市学校運営協議会規則」を策定し、令和3・4年度を周知と準備の期間として、令和5年度よりすべての加西市立学校に「学校運営協議会」を設置した。本年度は、学校運営協議会の役割等についての理解を深めるために新任委員を対象にした研修会を開催した。

・学校運営協議会新任委員研修会

日 時 5月30日(金) 加西市民会館
 テーマ 「加西市における学校運営協議会の取組について」
 講 師 加西市立総合教育センター地域コーディネーター
 出席者 各学校運営協議会新任委員36名



(2) 地域学校協働活動

ア 地域による学校を支援する活動

本年度も、全学校で地域ボランティアやふるさと創造会議など、地域住民や団体による学習支援が行われた。また、小学校の敷地内と通学路ではワッシュイスクール協力員や地域見守り隊による見守り活動が行われた。地域コーディネーターは、地域による学習支援に係る連絡調整ならびに学校や活動場所を訪問して活動状況の把握に努めた。加西市教育委員会が推進する加西STEAMの一環として、地元企業、研究機関、公共施設などと協働した新しい取組も増えている。

【各校の特色ある取組】

学 校	活動内容と支援者・支援団体
北条小	「節句祭りと街づくり」 5年（支援：住吉神社宮司、北条節句祭り保存会 他） 「世界のとびら」 日本語指導（支援：加西市連合婦人会、県栄養士会、保護者 他）
北条東小	「共生シティ加西をデザインしよう」 6年（支援：加西市国際交流協会 他） 「自然共生工場PPES」 3年（支援：㈱プライム プラネットエナジー&ソリューションズ（PPES））
富田小	「米づくり」 3年（支援：ワッシュイスクール協力員、窪田町営農組合） 「富田ヨガ」 全学年（支援：ヨガインストラクター）
賀茂小	「ハリマ王にんにくの栽培と調理」 3年（支援：㈱北本ファーム 他） 「ふるさとの偉人を知ろう」 高学年（支援：加西市シニアクラブ、加西市健康課 他）
下里小	「米づくり～田植えからおにぎりまで～」 3年（支援：西笠原町営農組合 他） 「減塩教室」 5年（支援：加東健康福祉事務所）
九会小	「万博出前授業」 5・6年（支援：㈱日本山村硝子、㈱平田運輸 他） 「『明日のコメ』プロジェクト」 3年（支援：㈱三宅酒造、県立播磨農業高校 他）

富合小	「加西市の企業の取組について知ろう」 5年（支援：㈱伊東電機） 「福祉体験～様々な障がいの疑似体験～」 4年（支援：加西市社会福祉協議会）
日吉小	「探検 in 北部公民館」 2年（支援：北部公民館） 「ワクワク料理教室」 3・4年（支援：がいの製麺所）
宇仁小	「安全・安心の綿づくり」 3年（支援：コットンボール銀行） 「ふるさとガイド隊」 5年（支援：加西市歴史街道観光ガイド）
西在田小	「椅子づくり」 6年（支援：原始人会） 「赤ちゃん先生交流会」 5年（支援：ママの働き方応援隊）
泉 小	「4小学校交流会～統合に向けて～」 各学年（協働先：日吉小、宇仁小、西在田小） 「だし巻き卵づくり」 6年（支援：割烹いづみ）
加西特別 支援学校	「北条鉄道乗車&買い物体験」 小・中学部（支援：㈱ハローズ、㈱イオン） 「わかばフェスティバル」 全校行事（支援：PTA、市内学校特別支援学級 他）
中学校	「トライやる・ウィーク」 中学2年（支援：地域の事業所・商店、公共施設 他） 「マナー講座」 中学2年（支援：姫路女学院中学校・高等学校）

※ 他に、各校で平和学習・福祉体験(CH体験)・命の授業・薬物乱用防止教室などが実施されている。

【小学校】



【中学校・特別支援学校】



イ 見守り活動

(ア) 地域子ども見守り隊

平成 18 年 2 月に結成され、令和 7 年度の登録者は 489 名。加西市の全小学校において、登下校時の交差点横断誘導や声掛けによる子ども見守り活動を行っている。保護者の目が届きにくいところにおいても注意深く見守り、児童は安心して登下校することができている。

(イ) ワッショイスクール推進事業

平成 15 年より実施。「開かれた学校づくり」「安全・安心な学校づくり」を目指し、地域の方々が学校を神輿（みこし）のごとく支え持つという意味で名づけられている。令和 7 年度は 306 名が登録し、交代で学校敷地内の巡回や環境整備など、不審者から児童を守るための抑止力として活動している。

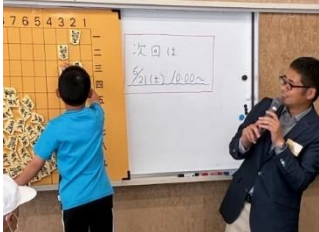
(ウ) 子ども 110 番の家

子ども達が不審者による声かけ、つきまとい、痴漢などの被害に遭った、あるいは遭いそうになった時に駆け込める緊急避難場所となっている。令和 7 年度の登録数は 508 件。協力していただける家庭や店舗、事業所等には、目印となるステッカーやのぼりが掲示されている。

ウ 土曜日の教育活動（土曜チャレンジ学習）

子どもたちにとって、より豊かで有意義な土曜日を実現するために、地域の多様な経験や技能をもつ人材の協力により、土曜日等の学校休業日に、体系的・継続的なプログラムを実施している。本年度も 6 小学校区で計画され、全 39 教室が実施された。総参加者数 988 名、1 教室当たり 25.3 名の児童が参加した。

令和7年度 土曜チャレンジ学習の各校の取組

小学校区	活 動 内 容
北条小	実施内容…P T A事業と連携した教科に即した発展的学習 活動内容 ① 1年 学校探検 ③ 3年 ドッジビー大会 ⑤ 5年 カローリング ② 2年 親子ドッジビー大会 ④ 4年 ドッジボール大会 ⑥ 6年 羅漢づくり 
北条東小	実施内容…スポーツ活動（陸上「走り方」教室） 活動内容（指導：加西市陸上競技協会会員） ①走り方教室（短距離走） ③走り方教室（短距離走） ⑤走り方教室（短距離走） ⑦走り方教室（長距離走） ②走り方教室（短距離走） ④走り方教室（短距離走） ⑥走り方教室（短距離走） ⑧走り方教室（長距離走） 
下里小 (善防公民館)	実施内容…子ども将棋教室（講義と対局） 活動内容（指導者：日本将棋連盟指導員、地域有段者） ①子ども将棋教室 ③子ども将棋教室 ⑤子ども将棋教室 ⑦子ども将棋教室 ②子ども将棋教室 ④子ども将棋教室 ⑥子ども将棋教室 ⑧子ども将棋教室 
九会小	実施内容…九会地区ふるさと創造会議と連携した体験活動 活動内容 ①九会っ子！野菜植え付け体験 ③ハーブ植え付け・加工体験 ⑤気球搭乗体験 ②そばうち体験 ④サツマイモ収穫体験 ⑥なわとび体験 
富合小	実施内容…校区子ども会与連携した教科に即した発展的学習 活動内容 ①スポーツ教室①(野球) ③スポーツ教室②(野球) ⑤ドローン教室 ②布ぞうり作り教室 ④グランドゴルフ教室 ⑥料理教室 
泉 小	実施内容…P T A事業と連携した教科に即した発展的学習 活動内容 ①いもイモ大作戦！Part 1 ③ドローン体験 ⑤サツマイモスイーツづくりに挑戦!! ②いもイモ大作戦！Part 2 (いもほり) ④6年生親子ふれあいイベント 

エ 地域未来塾（かさい未来塾）

「学校を核とした地域連携促進事業」を受けた地域学校協働活動の一環として、自主的・自立的に学ぼうとする生徒に対して、地域人材等の学習サポーターを活用して、地域と学校の連携・協働による学習支援を行っている。本年度も夏季休業中に4中学校で延べ75日実施した。参加申込者数179名、総参加者数2,168名、1回当たり28.9名の生徒が参加した。



【北条中】



【善防中】



【加西中】



【泉 中】

（3）成果と課題

- 令和5年4月に、学校運営協議会を市内の全学校に設置した。本年度は新任委員対象の研修会を開催し、学校運営協議会の役割や地域学校協働活動等について、理解を深めた。「地域とともにある学校づくり」において、より機能的な組織となるように、今後も継続的に支援していくことが重要である。
- 加西市は小学校を中心に、以前から学校と地域との結びつきが強く、地域住民は学校に協力的である。そのような地域性から、すべての学校が地域を学習の場としていかしたり、地域人材を活用したりして、米づくりなどの栽培活動や食育、自然観察、史跡見学など様々な体験学習を展開している。学習後の児童生徒や教職員の感想では、有意義な体験学習ができたとその多くが肯定的に評価している。
- 地域学校協働活動の成果として、地域と連携協働した様々な体験を通して、郷土の歴史や文化、自然、地域社会の特色について理解を深めるとともに、自尊感情や生命・自然を大切にする心、ふるさとを愛する心など豊かな心を育てることがあげられる。
- 学校の統合・再編計画により、学校の統合が順次進められていく。各学校が実施していた特色ある地域学校協働活動について、新しく開校した学校でどのように取り組んでいくのかが課題である。
- ワッシュイスクールや地域子ども見守り隊などの学校安全ボランティアは、校区によって人数や方法に違いはあるが、児童生徒は安心して登下校したり学校生活を送ったりすることができている。学校の統合・再編により、地域の見守り活動は、バス通学に対応する新しい体制を整える必要がある。また、ワッシュイスクール協力員は高齢化しており、地縁団体（区長会、シニアクラブ等）等と連携することにより、人材を確保していくことが必要である。
- 土曜日の教育活動（土曜チャレンジ学習）については、学校・PTA・子ども会・ふるさと創造会議等と連携を図りながら、地域と密着した様々な教室を行っている。参加した児童は各教室の活動を通して、地域の方々や家族とのふれあいを深めたり、地域のよさを見つけたりすることができた。一方、委託団体や各学校には、プログラムの計画や準備、募集チラシ・参加者名簿の作成等の事務処理、休日の出勤等負担をかけている。土曜日の教育活動が、子ども達にとってより豊かで有意義な活動となり、持続可能な活動となるよう実施方法等を検討していきたい。
- 地域未来塾（かさい未来塾）は、校内の涼しく、静かな雰囲気の中で集中して計画的に学習ができ、学習サポーターからのアドバイスもあるため、参加生徒からは好評である。令和10年度に3中学校が統合した加西中学校が開校し、多くの生徒がバス通学となる。未来塾のための通学バス運行は困難と思われるので、生徒が自転車で通える市内4つの公民館での実施を検討する。

Ⅲ 育成支援

育成支援係は、青少年の健全育成のために、次の6つの事業を推進した。

- ① 青少年の健全育成に関すること
- ② 不登校支援に関すること
- ③ 発達支援に関すること
- ④ 教育相談に関すること
- ⑤ 青少年育成に関すること

1 健全育成

(1) 加西市青少年補導委員連絡協議会

各小学校区の補導委員の中から選出された12名の理事が中心になって、委員相互の連絡を密にするとともに積極的な補導活動を推進している。

また、青少年の非行防止と健全育成を推進するため、健全育成関係団体（青少年健全育成連絡協議会、連合PTA、防犯協会）との連携強化を図った。

期 日・場 所	内 容
4/5(土)・6(日) 住吉神社他	北条節句祭り特別補導
4/11(金) 総合教育センター	第1回理事会 ・定期総会について ・定期総会の準備と役割分担について ・委嘱状の交付と代表者の選出について ・知事表彰等について
4/16(水) 総合教育センター	第1回女性協力員の会
5/9(金) 総合教育センター	第2回理事会 ・令和7年度定期総会について ・北播磨補導委員統一活動について ・夏季休業中の巡回について
5/24(土) 加西市民会館	定期総会
6/11(水) イオン加西北条店	女性協力員による特別補導
7/4(金) 健康福祉会館	第3回理事会 ・北播磨補導委員統一活動について ・加西サイサイ祭り特別補導活動について ・加西市青少年健全育成関係団体連絡会について
7/12(土) 市内量販店 コンビニ等	北播磨補導委員統一活動 ・量販店、コンビニ、公園等及び各校区における巡回補導活動
8/3(日) 加西市役所周辺	第48回加西サイサイ祭り特別補導
8/19(火) 総合教育センター	加西市青少年健全育成関係団体連絡会 加西市青少年健全育成関係団体合同役員研修会

9/5（金） 総合教育センター	第4回理事会 ・北播磨統一活動実施結果について ・加西サイサイ祭り特別補導実施結果及び今後の課題について
10/6（月）～ 10/17（金） アステシア加西	いじめ防止運動作品展
10/24（金） 三木市文化会館	第58回兵庫県青少年補導委員大会・研修会 ・知事表彰等授賞式
11/7（金） 総合教育センター	第5回理事会 ・ネットトラブルから子どもを守る市民研修会、加西市青少年非行防止・健全育成キャンペーンについて ・「加西市ネット見守り隊」啓発のぼり等の購入・設置について ・知事感謝状、会長感謝状の授与について
11/29（土） 加東市社公民館	北播磨青少年健全育成関係機関・団体合同研修会
12/6（土） 加西市民会館 市内量販店等	ネットトラブルから子どもを守る市民研修会 青少年非行防止・健全育成キャンペーン兼北播磨統一活動
12/10（水） イオン加西北条店	女性協力員による特別補導
1/16（金） 総合教育センター	第6回理事会 ・ネットトラブルから子どもを守る市民研修会実施結果並びに青少年非行防止・健全育成キャンペーン実施結果について ・令和7年度事業報告について
2/18（水） 総合教育センター	第2回女性協力員の会
3/13（金） 総合教育センター	第7回理事会 ・会計監査 ・令和8年度加西市補導委員連絡協議会総会について ・令和8年度事業計画について ・節句祭り特別補導について

ア 補導活動

各区長から推薦のあった補導委員 137 名、関係団体から推薦のあった女性協力員 10 名、合計 147 名が補導委員として、青少年の非行防止、健全育成のために補導活動を実施した。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	累計
回数	64	45	49	65	66	41	40	38	46	38	39	21	552
人数	165	111	103	136	186	88	89	86	106	80	103	51	1304

イ 特別補導活動

（ア）北条節句まつり

4月5日（土）、6日（日）の2日間、住吉神社及びその周辺において補導活動を実施した。

（イ）第48回加西サイサイまつり

8月3日（日）、加西市役所及びその周辺において補導活動を実施した。

令和6年度から前夜祭の補導活動を中止した。

(ウ) 北播磨統一活動

北播磨5市1町で組織する北播磨補導委員連絡協議会の活動として次の活動を行った。

a 第1回

7月12日(土)、市内の量販店、書店、コンビニ等各店の協力を得て、補導委員と加西警察署員が非行防止のチラシなどの配布と巡回補導活動を実施した。

b 第2回

12月6日(土)、青少年健全育成関係機関・団体、加西警察署と合同で、青少年補導委員等約100名が啓発のぼりを掲出し、イオン加西北条店、マックスバリュ等量販店において買い物客に対してチラシを配布して、キャンペーンを実施した。



ウ 女性協力員の活動

(ア) 構成

女性協力員は、連合PTA及び北条高校PTA、連合婦人会、更正保護女性会から推薦のあった10名で構成する。

推薦団体		人 数
連合PTA	学校名	
	北条中	1
	善防中	1
	加西中	1
	泉 中	1
北条高校PTA		2
連合婦人会		2
更正保護女性会		2

(イ) 活動内容

女性の特性を活かして青少年の非行防止と健全育成を推進する活動で、具体的には、児童生徒の登下校時の立ち番や計画的な広報車による巡回補導、日頃の地域における青少年の様子についての情報提供等を行った。

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	累計
回数	18	12	10	8	9	13	10	8	10	12	7	4	121

(ウ) 合同補導活動

6月11日(水)、12月10日(水)午後6時より、イオン加西北条店において合同補導を実施した。

(2) 加西市青少年健全育成連絡協議会

市内10地区(北条小校区と北条東小校区は合同)の健全育成会の会長による組織で、各地区活動の情報交換を行い、連携した青少年健全育成活動の推進を図ることを目的としている。

各地区健全育成会の傘下には、PTA、補導委員、防犯委員が所属しているため、各地区の不審者対応の中心となっている。令和6年度、九会地区青少年健全育成会は、12月12日に開催した臨時総会において、同地区の健全育成会を解散した。令和8年度に新泉統合小学校が開校されることを見越し、令和7年度に日吉地区、西在田地区と宇仁地区も解散することになっている。時代の変化に伴い本協議会の目的が薄れつつあったため、10/3(金)臨時総会を開催し、令和7年度をもって本協議会を解散することとなる。

ア 活動内容

期 日・場 所	内 容
7/10（木） 総合教育センター	第1回協議会 ・令和7年度役員の選出 ・令和6年度の活動報告及び令和7年度の活動について ・不審者情報について ・各育成会の活動状況及び情報交換
8/19（火） 総合教育センター	加西市青少年健全育成関係団体連絡会 加西市青少年健全育成関係団体合同役員研修会
10/3（金） 総合教育センター	臨時協議会 ・令和8年度以降の加西市青少年健全育成連絡協議会について ・令和8年度以降の「地区青少年健全育成会」補助金について
12/6（土） 加西市民会館 市内量販店等	ネットトラブルから子どもを守る市民研修会 青少年非行防止・健全育成キャンペーン
3/10（火） 総合教育センター	第2回協議会 ・令和7年度活動の成果と課題について ・不審者情報及び不審者への対応について ・各育成会の活動状況及び情報交換

イ 「不審者注意」啓発のぼり旗の製作

不審者対応として、啓発のぼり旗を製作し、不審者が出現した地点の近くや幹線沿いに設置し、通行する児童生徒をはじめ、一般市民への注意喚起・啓発を行った。

（3）加西市連合PTA

家庭教育力の向上を図ることを目的として市内小・中学校PTAの連合体を構成し、下記の活動を実施した。青少年健全育成関係団体と連携して補導活動や健全育成、ネットトラブル防止の啓発活動を行うとともに、「子ども見守り隊」活動や「子ども110番の家」の設置等により、児童生徒が安全で安心な生活を送れるように取り組んだ。

期 日・場 所	内 容	参加数
4/22（火） 加西市健康福祉会館	第1回会長会（新旧）並びに総会 ・総会決議 ・令和7年度の活動の確認 ・役員引継ぎ	32
6/24（火） 総合教育センター	第2回会長会 ・PTCA活動支援事業 実践発表について ・今後について	18
8/21（木） 総合教育センター	第3回会長会 ・研修会等補助について ・PTCA実践発表会について	18
10/23（木） 加西市健康福祉会館	第4回会長会 ・PTCA実践発表会の運営について ・新役員選出について	18

10/25（土） 加西市健康福祉会館	加西市連合 P T A 実践発表会 実践発表 3 P T A（北条小・賀茂小・西在田小） 講演 演題 「不登校の理解と支援」 講師 児玉 美幸	95
1 / 17（土） 高砂市文化会館	東播磨・北播磨地区市郡連合 P T A 指導者研究集会及 び高砂市 P T A 協議会研修会 講演 演題 「教育 YouTuber が子どもたちに 伝えたいこと」 講師 葉一	250
1 / 23（金） 総合教育センター	第 5 回会長会 ・新役員について ・次年度の行事について	18
3 / 23（月） 総合教育センター	第 6 回会長会 ・次年度の活動テーマについて ・1 年間の反省について	18

ア P T C A 活動支援事業

P T A を中核に、地域の住民（C：コミュニティ）の参画と協働による P T C A 活動の充実にむけた P T A の主体的な取組を支援し、家庭の教育力の向上を図るとともに、地域が支える学校づくりの充実や子どもたちの安全・安心を守る活動を支援することを目的としている。具体的な取組は、次のとおりである。

（ア）テーマ

一味同心～子ども達のために、心通わせ共に進む～

（イ）実践発表・講演会

本年度は、3 P T A（北条小・賀茂小・西在田小）が実践発表を行った。

講演会は、兵庫県立神出学園 臨床心理士 児玉 美幸氏による「不登校の理解と支援」という演題で講演会を行った。

（ウ）家庭教育支援活動

各学校で P T A が実施する講演会などの経費の一部補助を行った。

【実施内容】

- ・芸術鑑賞会（北条小）、和太鼓鑑賞・体験会（北条東小）、芸術鑑賞会（日吉小）
ミュージックベルとトーンチャイムの演奏（西在田小）
- ・音楽隊演奏・防犯講話・安全講話（九会小）、
- ・サイエンスショー（賀茂小）
- ・講演会
「あいさつの魔法～人をつなげるマジックコミュニケーション～」（富合小）
「スマホの使い方について考える ネットリテラシー講座」（加西中）
「わたしはないものを数えない。」（泉中）

（エ）学校教育支援活動

P T A や学校支援ボランティアによる教育環境の整備や読み聞かせ、あいさつ運動などを行った。

（オ）子どもの安全・安心を守る取組

P T A や地域の協力による「地域子ども見守り隊」活動の実施や「子ども 1 1 0 番の家」の設置の依頼を行った。また、活動に必要なのぼり旗・ベスト等を計画的に購入し、活動推進の一助としている。

(4) 青少年健全育成関係団体連絡会

青少年の健全育成に関わる 5 団体（加西市青少年補導委員連絡協議会、加西市青少年健全育成連絡協議会、加西市連合 P T A、加西市防犯協会、総合教育センター）の連携強化を図り、巡回補導や育成事業の効果的な活動のための協議を行うとともに、インターネットトラブル防止のための啓発と研修を行う。

ア 合同役員研修会

8 月 19 日（火）、当センターにて、青少年健全育成関係団体役員が講師を招き、研修会を開催した。

イ ネットトラブルから子どもを守る市民研修会

12 月 6 日（土）、加西市民会館にて、青少年健全育成関係団体の構成員及び一般市民を対象に研修会を開催した。

ウ 青少年非行防止・健全育成キャンペーン

12 月 6 日（土）、市内 10 箇所の量販店、書店等においてキャンペーンを実施し、啓発のばりを掲出して買い物客に対してチラシなどを配布した。

(5) 生徒指導に関する取組

ア 生徒指導に関する現状

資料①～③は、問題行動件数やいじめ認知件数、不登校児童生徒数を示している。

資料①

加西市 児童生徒の問題行動件数

【小学校】

(件数)

種 別			H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
刑法犯行為	暴力 行為	学校内	1	3	0	9	24	48	47	34	49	43
		学校外	0	1	0	0	0	4	3	1	1	3
	器物損壊		1	1	0	2	4	8	3	4	5	12
	恐 喝		0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
	窃盗(万引き等)		7	5	4	2	4	3	2	3	3	4
	その他(放火等)		0	1	0	0	2	1	1	1	0	0
	ぐ犯・不良行為	深夜はいかい		0	0	0	0	0	0	0	0	0
家 出		2	0	0	4	4	0	2	0	0	0	
飲 酒		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
喫 煙		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他(不良交友等)		17	15	29	49	40	29	51	39	40	83	
けんか		2	2	3	14	16	8	9	6	6	12	
無免許運転			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計			30	28	36	80	94	102	118	88	104	157

【中学校】

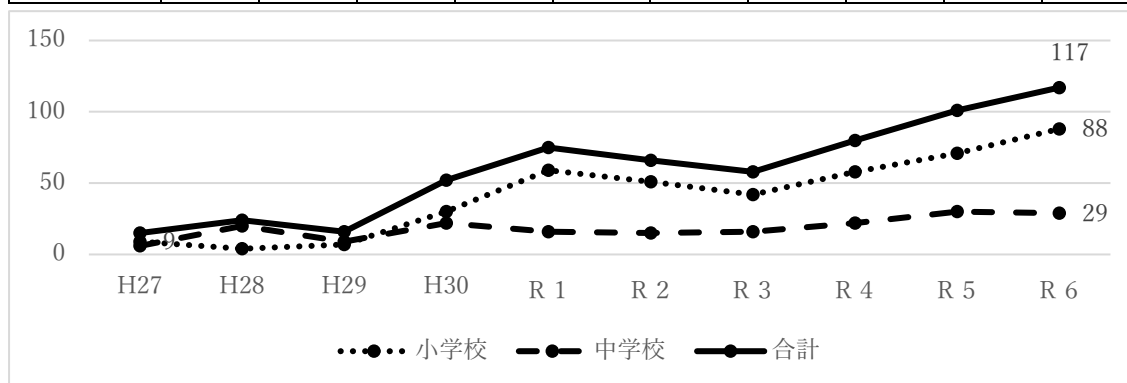
(件数)

種 別			H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
刑法犯行為	暴力 行為	学校内	5	6	10	16	9	4	3	22	30	14
		学校外	0	0	0	1	1	0	0	0	2	2
	器物損壊		0	4	2	1	2	3	1	5	9	9
	恐 喝		0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
	窃盗(万引き等)		2	10	7	4	6	3	1	1	1	2
	その他(放火等)		1	0	0	2	0	0	0	0	0	0
ぐ犯・不良行為	深夜はいかい		0	0	1	0	0	1	0	2	0	0
	家 出		1	1	1	1	6	2	1	5	0	0
	飲 酒		0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	喫 煙		3	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	その他(不良交友等)		67	68	57	84	66	94	116	92	92	47
	けんか		6	16	14	20	8	11	12	14	3	7
無免許運転			1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計			86	106	92	129	99	118	136	142	137	82

いじめの認知件数

【加西市の認知件数】

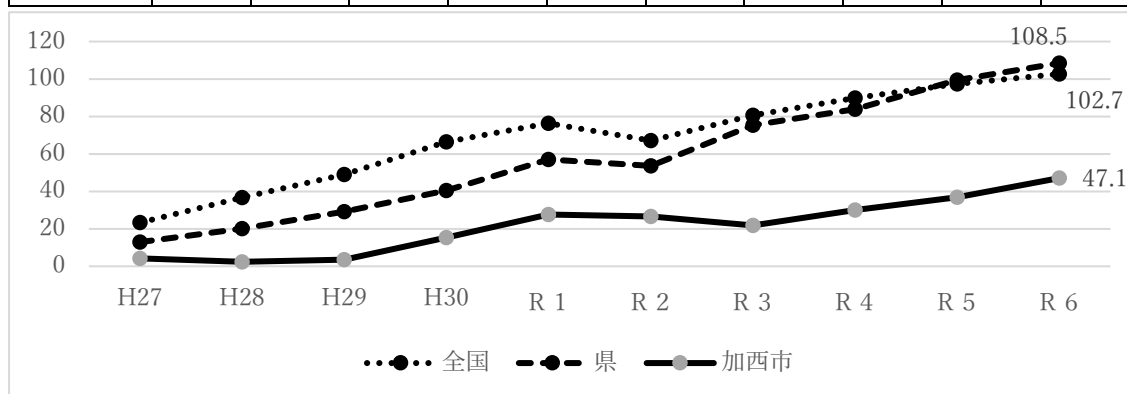
	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
小学校	9	4	7	30	59	51	42	58	71	88
中学校	6	20	9	22	16	15	16	22	30	29
合計	15	24	16	52	75	66	58	80	101	117



【1000人当たりの認知件数】

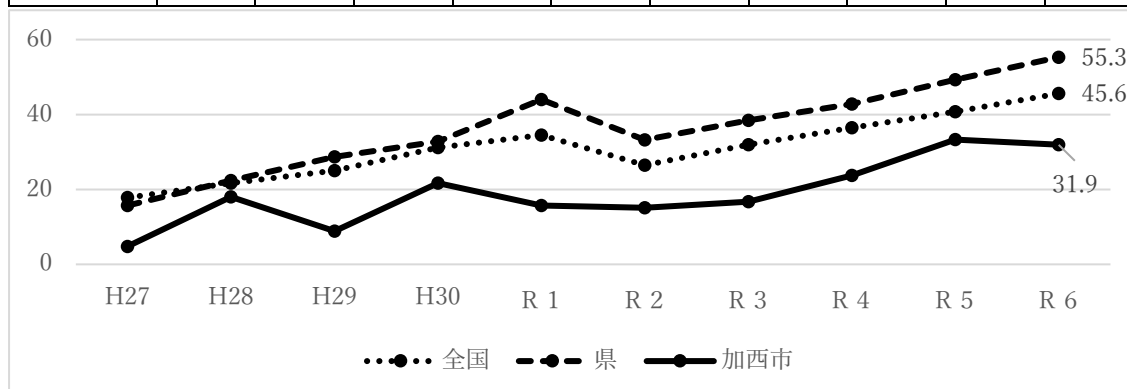
小学校

	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
全国	23.3	36.7	49.0	66.5	76.4	67.1	80.7	89.8	97.4	102.7
県	12.9	20.1	29.1	40.5	57.0	53.6	75.3	83.8	99.4	108.5
加西市	4.3	2.4	3.6	15.3	27.7	26.7	21.9	30.1	36.9	47.1



中学校

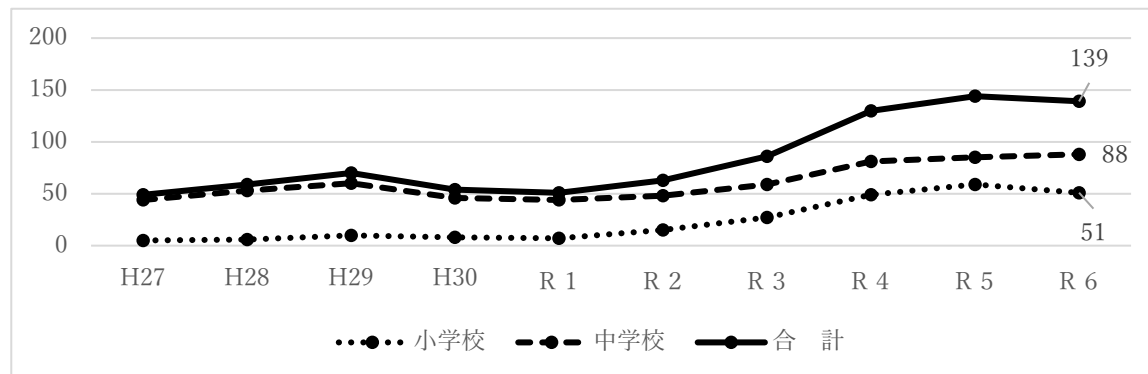
	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
全国	17.8	21.7	25.0	31.2	34.5	26.5	31.9	36.5	40.7	45.6
県	15.7	22.4	28.7	32.8	44.0	33.2	38.4	42.8	49.3	55.3
加西市	4.8	18.0	8.9	21.7	15.7	15.1	16.7	23.7	33.3	31.9



不登校児童生徒数

【加西市の不登校児童生徒数】

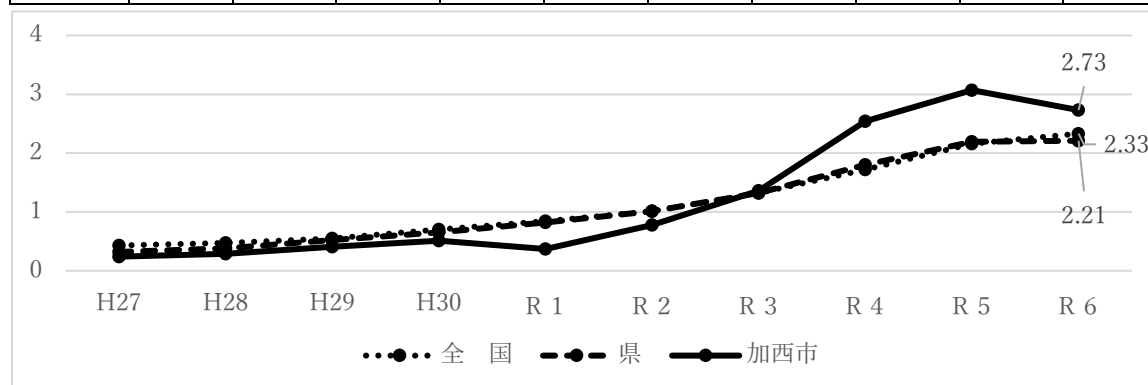
	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
小学校	5	6	10	8	7	15	27	49	59	51
中学校	44	53	60	46	44	48	59	81	85	88
合計	49	59	70	54	51	63	86	130	144	139



【不登校児童生徒の割合】

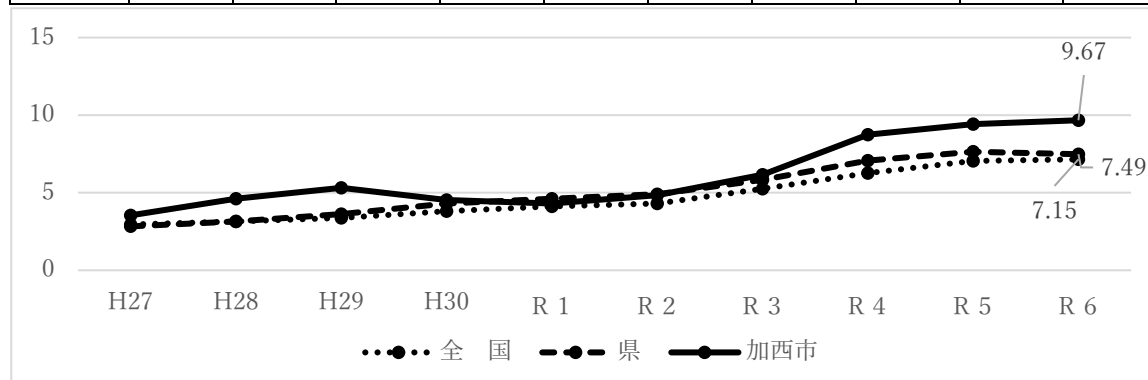
小学校

	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
全国	0.43	0.47	0.55	0.70	0.84	1.01	1.32	1.72	2.16	2.33
県	0.32	0.38	0.52	0.65	0.82	1.01	1.32	1.80	2.19	2.21
加西市	0.24	0.29	0.41	0.51	0.37	0.78	1.36	2.54	3.07	2.73



中学校

	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
全国	2.95	3.14	3.38	3.81	4.12	4.30	5.26	6.27	7.04	7.15
県	2.83	3.15	3.63	4.30	4.62	4.91	5.82	7.06	7.64	7.49
加西市	3.54	4.62	5.32	4.53	4.31	4.83	6.16	8.74	9.43	9.67



以上のことから、次の取組が必要と考えられる。

- ・インターネットの事案も含むいじめの未然防止・早期対応・再発防止に向けた取組
- ・不登校児童生徒の支援
- ・発達に特性のある子どもの支援（ソーシャルスキルトレーニング）

そのため、次にあげる取組を実施し、学校・関係機関と連携し、相談支援体制の強化を図った。また保護者・地域の理解と協力を得られるよう啓発活動も行った。

イ いじめ防止等に関する取組

（ア）加西市いじめ防止基本方針・加西市いじめ対応マニュアル

加西市いじめ対応マニュアルを、各種会議で周知し、未然防止・組織的対応・再発防止の取組について、学校・警察・市長部局と共有した。

（イ）加西市子どもいじめ問題対策審議会

加西市子どものいじめ防止等に関する条例によって、加西市いじめ防止基本方針に基づくいじめの防止等のための対策を実効的に行うようにするため、教育委員会の附属機関として、加西市子どもいじめ問題対策審議会を設置した。学識経験者をはじめ法律、医学、心理等の専門家に委員を委嘱した。

期 日・場 所	内 容
8/20（水） 総合教育センター	第1回加西市子どもいじめ問題対策審議会 ・審議会委員確認 ・加西市におけるいじめの現状とこれまでの取組について ・いじめ事案の対応検討
3/10（火） 総合教育センター	第2回加西市子どもいじめ問題対策審議会 ・加西市におけるいじめの現状について ・いじめ対応の課題について

（ウ）いじめ対応加西市ネットワーク会議（加西市いじめ問題対策連絡協議会）

加西市いじめ防止基本方針に基づき、各学校と教育委員会、市長部局（人権推進課と子育て支援課）、加西警察署、加西市青少年補導委員連絡協議会等のいじめの防止等に関係する機関・団体が連携を図り、いじめ防止等の対策を効果的に推進するための会議として開催した。学校・警察・総合教育センター連絡会と兼ねて行った。

期 日・場 所	内 容
7/3（木） 加西市民会館	第1回いじめ対応加西市ネットワーク会議 ・いじめに関するアンケート調査の結果について ・「いじめ対応マニュアル」の確認と早期対応について ・いじめ防止運動作品募集について
12/4（木） 加西市民会館	第2回いじめ対応加西市ネットワーク会議 ・いじめに関するアンケート調査の結果について ・発達に特性のある児童生徒の配慮と指導について ・関係機関でのいじめ対応について

（エ）いじめ防止運動

a いじめ防止運動作品展の開催

児童生徒が、いじめに対して正しい認識をもち、いじめを防止しようとする意識の高

揚を目的に開催した。夏休みに小・中学生に「標語」、「ポスター」を募集し、優秀作品を選考し表彰した。10月6日（月）～10月17日（金）までアスティアかさい地域交流センターウォールギャラリーにて作品展を開催し、さらに小・中学校において「持ち回り展」を行った。

いじめ防止運動作品展応募数					
ポスターの部	小学5年	146	ポスターの部	中学1年	53
標語の部	小学6年	293	標語の部	中学2年	235
			ポスターの部	中学3年	10
応募総数 737					

b 啓発チラシの作成・配布

いじめ防止運動作品展で募集した標語やポスターの優秀作品を掲載したいじめ防止啓発チラシを作成し、12月6日（土）の青少年非行防止・健全育成キャンペーンにおいて、市内10か所の量販店や書店等で買物客に配布し啓発活動を行った。各町においても、啓発チラシを回覧板にて回覧を行った。

c 青少年健全育成カレンダー・クリアファイルの作成・配布

啓発チラシと同じくいじめ防止運動作品展の優秀作品を掲載した青少年健全育成カレンダー・クリアファイルを作成し、各関係機関、施設、全児童生徒に配布した。

ウ インターネット等の使用に関する取組

（ア）アンケート調査の実施

スマートフォンやゲーム機などインターネットに接続可能な機器の普及に伴い、児童生徒がネットトラブルや犯罪に巻き込まれる危険性が増し、さらに長時間利用によるインターネット依存・ゲーム依存の問題が発生している。そこで、市内小・中学生のインターネット等の使用状況を把握し、学校、保護者及び児童生徒自らが対策を考えるための資料とするため、アンケート調査を実施した。

そして、調査結果を分析し、各小・中・特別支援学校に公表するとともに、現状に対しての各学校の取組を考え、対策を行うよう依頼した。

（イ）啓発リーフレットの作成（別紙）

調査結果を分析し、各家庭における今後の対策について、リーフレットを作成し、小・中・特別支援学校全児童生徒の保護者及び教職員に配布した。各家庭には、インターネットやスマートフォン、ゲーム機の使い方について、家庭での親子の話し合いを啓発した。

（ウ）特別監視員によるサイバーパトロールと情報提供

月に1回センターにて特別監視員とともにサイバーパトロールを行うとともに最新の情報提供を受け、必要な対策を各小・中・特別支援学校に促した。早急に対応が必要な事案については、その都度連絡を取り合い対応した。

エ 学校サポートチーム

児童生徒の、いじめや不登校・問題行動等の未然防止及び早期対応・早期解決、相談体制の充実等を図るため、様々な専門性を有する相談員等が連携して学校への多面的な支援を行う学校サポートチームを設立している。

学校サポートチームの構成員は次のとおり

生徒指導担当指導主事、相談員（警察関係者OB）

SSW（社会福祉担当）

発達支援アドバイザー（臨床発達心理士）、学校経営アドバイザー（校長OB）

教育相談員（臨床心理士）、弁護士（必要に応じて）

S S Wは学校、加西市こどもサポートセンター、市地域福祉課等との連携の窓口となり、家庭訪問や教育相談を行い、学校を支援した。発達支援アドバイザーは発達検査を行い、要請に応じて、学校にてアセスメントを行い、指導・助言をした。保護者・児童生徒の悩み相談については、臨床心理士が対応し、学校との連携を図った。教職員からの悩み相談を学校経営アドバイザーが行い、指導・助言を行った。

【対応回数】

令和8年3月末

発達支援アドバイザー	総合教育センターでの面接相談	222
	学校訪問（アセスメント・相談等）	47
	電話相談	49
	各種検査	109
	各機関との連携（教育支援委員会含）	31
S S W	面接相談（関係機関含む）	2,821
	家庭訪問	540
	電話相談	1,467
	ケース会議	68

オ 学校・警察・総合教育センター連絡会

各小・中・特別支援学校及び高等学校生徒指導担当者による情報交換を行い、問題行動の未然防止と早期発見に努め、組織的な生徒指導体制を構築できるよう、年間5回開催した。加西警察署との情報共有により、関係機関の連携をより一層深めた。

期 日・場 所	内 容
5/27（火） 総合教育センター	・ 青少年の現状について（非行、交通事故、虐待、問題行動） ・ 問題行動・いじめ・長期欠席等の報告について ・ 生徒指導に関する情報交換 ・ 各中学校区小中連絡会
7/3（木） 加西市民会館	・ 青少年の現状について（非行、交通事故、虐待、問題行動） ・ いじめ事案の対応について ・ 生徒指導に関する情報交換 ・ 各中学校区小中連絡会
10/8（水） 加西市民会館	・ 事例研修（いじめ対応の基本的な流れの確認） ・ インターネット等の使用についてのアンケート調査について ・ 生徒指導に関する情報交換 ・ 各中学校区小中連絡会
12/4（木） 加西市民会館	・ 青少年の現状について（非行、交通事故、虐待、問題行動） ・ いじめ事案の対応について ・ 性被害・加害の児童生徒の対応 ・ 各中学校区小中連絡会
3/5（木） 加西市健康福祉会館	・ 青少年の現状について（非行、交通事故、虐待、問題行動） ・ 令和7年度の問題行動・いじめ・不登校について ・ 生徒指導に関する情報交換 ・ 各中学校区小中連絡会

カ すまいるリンクネットワーク連絡会（市不登校対策連絡協議会）

総合教育センター、地域福祉課、健康課、学校教育課、こども未来課、基幹相談支援センター「やすらぎ」で連絡会を開催した。毎月1回、情報交換を行い、不登校やひきこもり支援に対する方向性を共通理解し、これからの課題についても協議した。また、この連絡会で共通理解した内容を日々の連携に生かし、S S Wを中心に密に連絡を取り合い、協力体制の強化を図った。

2 不登校支援

本年度も全国的に不登校児童生徒は増加しており、加西市においても同様の状況にある。加西市では、教育支援センター「ふれあいホーム」に加え、市内すべての中学校に校内フリースクールを開設し、人員を配置して不登校支援に取り組んでいる。これにより、不登校生徒は、「ふれあいホーム」と校内フリースクールの併用が可能となり、個に応じた多様な居場所の提供ができるようになった。開室当初よりも、不登校生徒や学校の思いを受けて、登校のハードルを可能な限り下げ、一人一人の不登校生徒に応じたペースで登校できる場所となり、学校・保護者・地域にも理解の輪が広がりつつある。

小学校における不登校支援は、高学年の不登校児童が、「ふれあいホーム」に入室が可能である。しかし、通室するのが難しい不登校児童も多い。そこで、別室登校の児童や教室に入りづらい児童を支援するために「小学校不登校児童支援員」を4校に派遣している。小学校の校内にサポートルームを設置し、そこで不登校児童の居場所づくりや支援に取り組んでいる。

当センターでは、不登校支援の基本理念「社会的自立」の下、支援にあたる教育相談員の中で、「選択決定するのは本人」、「評価やジャッジ、判断決定しない」ことを共通理解し、過ごし方も通室した児童生徒自身が決めるなど、児童生徒の主体性を尊重した支援を目指している。

【本年度の利用人数の内訳】

(令和8年3月末)

			小学生	中学生	合計
ふれあいホーム			5	16(10)	21(10)
校内フリー スクール	北条中	あおば		9(3)	9(3)
	加西中	ひなた		8(3)	8(3)
	泉中	なのは		7(3)	7(3)
	善防中	のどか		2(1)	2(1)
合 計			5	32(10)	37(10)

()の内数は、ふれあいホームと校内フリースクールを併用している生徒数

(1) 教育支援センター「ふれあいホーム」

市内小・中学校に在籍する小学4年生以上の児童生徒を対象に受け入れを行っている。様々な体験を通して自ら活動できるエネルギーを養い、自分自身や対人関係のあり方に自信を持ち、社会的自立を目指すことを主なねらいとしている。「ふれあいホーム」が子どもたちの居場所となり、人とのつながりを感じられる場となれるように教育相談員が児童生徒の心に寄り添い支援を行った。また、個別スペースを作り、落ち着いて自主学習したり、一人で過ごしたりできる環境を提供している。



【ふれあいホーム室内】

<活動内容>

自主学習や読書の他、創作活動、菜園活動、散歩、調理実習、夏祭りなど様々な体験活動を大切にし、ハイキングや職業体験など当センター外での活動も実施した。活動内容は自分たちで話し合い、考え工夫しながら行った。これらの体験活動を自主的・主体的に取り組み、成功体験を積み重ねることで、通室生が自信をもって活動できるように配慮し取り組んだ。また、当センターの臨床心理士をオブザーバーに迎え、不登校あるいは不登校傾向にある児童生徒の保護者同士が交流する場として親の会「ふれあい café」を年1回開催した。

<主な行事>

期 日	内 容	場 所
4/24 (木)	ハイキング	兵庫県立フラワーセンター
5/27 (火)	消火訓練	総合教育センター
6/19 (木)	陶芸体験 ※中止	あお陶遊館アルテ
8/7 (木)	夏祭り	総合教育センター
10/27 (月)	親の会「ふれあい café」	総合教育センター
10/30 (木)	社会見学	にしわき経緯度地球科学館テラ・ドーム
11/10 (月) ～14 (金)	職業体験 「ミニトライやる」	西村書店
12/18 (木)	クリスマス会	総合教育センター
2/19 (木)	卒業生を送る会	総合教育センター



【消火訓練の様子】



【夏祭りの様子】



【調理実習の様子】



【菜園活動の様子】

(2) 校内フリースクール

昨年度より、市内全ての中学校で開設し、受け入れが可能となった。さらに、本年度から始業式と終業式の日も開室している。校内フリースクールは各校の別室登校とは違い、当センター教育相談員によって運営され、校内に設けられているが教室とは違う環境を整えている。

室内には、周囲の目を気にせず自主学習等に取り組める個別スペースを確保し、通室生同士が交流できるスペースとして円卓やソファも設置している。校内にあるが、あえて学校を想起させない内装とすることで、通室生がより落ち着いて過ごせるよう配慮した。このような安心できる場と異学年の少人数グループでの関わりの中で、お互いを思いやる心が芽生え、心の成長も見られた。

校内にあるので給食の提供が可能である。通室生以外でも事前連絡のみで喫食可能としている。



【北条中 あおば】



【加西中 ひなた】



【泉中 なのは】



【善防中 のどか】

<活動内容>

通室生自身が一日の過ごし方を決めて活動をしている。個別スペースでは、自主学習や読書の他、オンラインで自校の授業に参加することもある。フリースペースに集まって共通の話題やゲームを楽しみながら、人との関わり方を身に付けている。

給食は全員が協力して準備・片付けを行い、円卓を囲みながら食事をする通室生もいる。他にも、室内装飾の創作活動や「ふれあいホーム」との合同行事に参加する通室生も増えてきている。



【給食の様子】



【通室生による制作物】



(3) 具体的な取組

ア 関係校との連携

(ア) 通室生の様子連絡

関係各校に通室生の様子をメールで報告し、月末には出席状況と通室時の様子を文書で報告するなど、学校と情報の共有を図るとともに通室生への対応や支援に活かした。

(イ) 連絡会の実施

年2回、関係校と振り返りや不登校児童生徒一人一人の支援の方針や思いを聞き、支援のあり方を話し合った。学校を軸として通室生への対応を協議するため、学級担任、指導主事、発達支援アドバイザー、SSW、教育相談員が情報交換をし、現状や今後の取組について話し合った。また、校内フリースクールでは、学校内にある利点を生かし、学校と通室生についての情報共有が容易であるため、学級担任と教育相談員が直接会って話をすることができた。

イ 家庭との連携

(ア) 事前説明と情報共有

入室希望者には事前に学級担任と相談の上、保護者同伴での見学を必須としている。見学の際にねらいや方針、活動内容等の説明を行っている。入室後は送迎の保護者と話をするなど、通室時や家庭での様子を共有し、日々の支援に生かすとともに、信頼関係の構築に努めた。

(イ) 個別教育相談の実施

年2回、希望する保護者には個別相談の機会を設けている。通室時の様子を伝え、本人・保護者が望む支援を聞き取るとともに、関係校との連絡会をもとに、社会的自立に向けた支援について思いや考えを共有した。

ウ ハートフレンドの活用

ハートフレンドとは、不登校児童生徒を支援する大学生である。当センターでは「ふれあいホーム」や校内フリースクールにおいて、教育相談員と一緒に活動している。ハートフレンドは、不登校児童生徒との年齢も近く、共通の話題で話ができるなど不登校児童生徒にとって心理的なプレッシャーが少なく、親しみやすいというメリットがある。

エ その他

案内や見学の際には「ふれあいホーム」・校内フリースクール両方の説明を行うことにより、幅広い利用につなげることができた。

通室生の特性や状況に応じて、臨床心理士、発達支援アドバイザー、SSWと情報を共有し、日々の支援に取り組んだ。専門的な意見や支援方法の助言をもらい、一人一人に合った支援を目指している。また、「ふれあいホーム」・校内フリースクールで毎日の出席状況や通室時の様子を相互共有し、併用している通室生の状況を把握することで、切れ目のない支援へとつなげることができた。行事についても通室生同士の交流の機会をつくった。



【テラ・ドーム見学】

(4) 成果と課題

不登校生徒の居場所として「ふれあいホーム」と校内フリースクールそれぞれの特色を活かし、不登校生徒一人一人に応じた支援が可能となった。中学校内にある校内フリースクールは、給食の提供や通室生が望めば学級担任と話したり、自校のオンラインを含む授業に参加したりすることができ、実際に教室で授業を受ける生徒が増えた。「ふれあいホーム」では、小学生の利用も増えつつあり、様々な活動を通し、異学年の通室生同士が自主的に関わり、お互いに交流しようとする姿が多くみられるようになった。

一方で、不登校児童が、「ふれあいホーム」へ通室したくても、遠距離で保護者の送迎が難しいなど通室できないケースがあり課題となっていた。そこで、「小学校不登校児童支援員」4名を北条小・北条東小・九会小・富合小に配属し、別室登校や教室に入りづらい児童のいる学校に派遣し、支援を行っている。

さらに、ハートフレンドも活用し、教育相談員とともに不登校支援の充実を図ることができた。このような様々な人との交流を通して相手への思いやりや気遣いが見受けられ、通室生の良い面や心の成長を感じることができた。

様々な課題がある不登校児童生徒に、個に応じた支援ができるように教育相談員の研修を行い、資質向上を図ることが大切である。また、保護者から不登校についての悩みや相談を気軽にできる機会を設け、保護者支援にも今後継続して取り組んでいく必要がある。

3 発達支援

(1) 発達相談

【発達相談】

令和8年3月末（件）

		面談相談	電話相談	計
合 計		591	69	660
対 象 者	こども園	54	0	54
	小学校	407	50	457
	中学校	130	19	149
	高等学校	0	0	0
	その他	0	0	0
相 談 者	保護者	279	14	293
	教師	281	49	330
	医療・福祉	8	6	14
	本人	23	0	23
主 訴	その他	0	0	0
	検査	109	44	153
	対人関係	26	1	27
	しつけ・子育て	4	1	5
	親子関係	0	0	0
	指導の手立て	328	15	343
	進路・学習	122	0	122
	その他	1	7	8

発達相談件数は、主訴別に見ていくと、昨年度と同様に、「指導の手立て」の相談が多く、次いで「検査」「進路・学習」「対人関係」となっており、日常生活や学習面でのつまづきを発達障害の特性と関連づけての相談事例が多い。

相談者別に見ると、教師からの具体的な指導や手立てについての相談だけでなく、発達検査とともに他の検査の相談も多く見られた。学校生活の困り感について、子どもの認知発達特性だけでなく、行動特性、学習意欲、そして、感覚特性などを総合的に分析して、学校と一緒に対応方法や支援方法を検討した。保護者からは、子どもの対人関係に関する相談だけでなく、行動の落ち着きのなさや読み書きなどの学習の遅れに関する相談が多く見られた。そのため、子どもの特性を把握し、保護者のニーズを確認しながら、今後の手立てや支援、家庭での関わりについて助言を行った。

(2) 発達検査

【実施状況】

令和8年3月末（件）

対象者	小学生	中学生	合 計
検 査	87	22	109

子どもの認知発達や行動特性、学習意欲などの性格特性を客観的に把握し、発達状態を伝えることを目的に発達検査を実施した。検査結果を保護者や学校関係者に報告し、教育支援委員会審査の資料や発達支援ファイルの作成、通級指導教室や個別指導での対応など、児童生徒が適した指導のもと安心して学べる学習環境につながるよう共通理解を図った。本年度は、発達検査以外に、読み書き検査や、感覚特性を調べる検査の依頼が多く見られた。また、以前受検した方で、経過観察のために受検する方も多く見られており、保護者の子どもの発達特性に応じた教育を受けさせたいというニーズは、依然として高い。

(3) 発達支援プログラム

学校生活及び日常生活において、不適応、またはそれに近い状態の児童に対して、よりよく適応できるように、行動特性や学習面など発達状態を把握し、発達を促す学習の場としてトレーニングを実施した。また、保護者や教員と共通理解を深めるために、保護者面談や教職員指導者連絡会を行った。加えて、発達段階に応じた適切なかわりを習得するための研修会や保護者が気軽に相談できる交流会を開催した。

ア トレーニング（のべ124回 1グループ 18回／年）

トレーニングは、以下のような流れで実施した。

- ・個々の実態を把握する。
- ・実態から指導すべき課題を見つけ、指導目標を立てる。
- ・具体的な指導内容を設定する。
- ・保護者へ課題と目標、指導の手立ての説明を行う。
- ・トレーニングを実施する。（活動終了後、保護者に活動内容をプリントにて配布）
- ・年度末に評価を行い、次年度へつなぐ。

また、発達支援プログラムプランを作成し、保護者・学校と共有している。

（ア）ソーシャルスキルトレーニング

集団活動やコミュニケーションに課題がある児童に対して、社会性・行動面及び対人関係におけるスキルや対応・知識を身につけることを目指す。低学年・中学年・高学年の3グループで実施し、発達段階に応じた内容に配慮した。

【活動の流れ】

- ・低、中学年 ガイダンス（内容確認）⇒動の活動⇒静の活動⇒振り返り
- ・高学年 ガイダンス（内容確認）⇒ミニゲーム⇒課題提示⇒ロールプレイ⇒振り返り

【内容】

- ・力のコントロールができるようにする。
- ・『気持ちを表す表情と言葉』の一覧から、自分の気持ちを選び、気持ちを伝えられるようにする。
- ・日常生活場面における自分の気持ちを言語化し、他者の気持ちを知る。
- ・聞き取る力を高める。
- ・注意、集中力を高める。
- ・場面に応じた対応の仕方を学ぶ。
- ・協力ゲームをする。
- ・ストレス解消法を学ぶ。
- ・会話のルールを学ぶ。



【協力ゲームの様子】

（イ）ミュージックケアとソーシャルスキルトレーニング

音やリズムを通して協調性を養い、集中力と注意力、体の動きに対する気づきを高める。友だちや指導者とのかかわりの中で、コミュニケーションの意欲と技能を高める。

【内容】

- ・感覚統合（音楽に合わせた、いろいろな体の動き）
- ・器楽合奏（曲のリズムやテンポに合わせて演奏する）
- ・音楽鑑賞（心と体のリラックス、集中）
- ・日常生活で使う会話の練習
（表現の確認とロールプレイ）
- ・友だちや指導者との会話
（会話の楽しさ、意欲と技能の向上）



【曲に合わせて動く活動】

(ウ) 個別トレーニング

アセスメントにより、つまずきの要因や自立の課題、本人の願い等を把握し、取組の目標と支援内容を設定する。

【内容 1】

- ・聞く、話す、読むトレーニングを通して、自分の力が発揮しやすい方法を知る。
- ・自ら考え、行動できるようにする。
- ・自ら課題に取り組めるよう、見通しを持つ練習を行う。
- ・プログラムでできたことを、自分の意志で学校生活に生かせるようにする。

【内容 2】

- ・力を調整する方法を知り、他の場面でも自己コントロールができるようにする。
- ・両眼視機能を高めることで、集中して作業をする。
- ・指導者と楽しい時間を共有し、その時の気持ちを言葉で表現する。



【身体的位置や動きを調整する】

【内容 3】

- ・自分を主語にし、出来事や思いを表現する。
- ・両眼視機能を高めることで、視野を広げ、人の気持ちや周囲の状況を考える。
- ・会話のルールを知り、会話を続ける練習をする。

イ 教職員指導者連絡会

学校と連携した支援の構築を目指して、在籍校ごとに連絡会を実施した。特別支援教育コーディネーターや学級担任と発達支援プログラムのねらいと内容を共有し、情報交換を行った。

ウ 研修会

(ア) 教職員研修会

教職員が子どもをより理解し、望ましい関わり方を習得するため研修会を開催した。

テーマ 「忘れ物が多い、整理整頓が苦手な児童生徒の理解と対応」

講師 ひょうご発達障害者支援センター

クローバー加西ブランチ 相談支援員 川野みか

(イ) ペアレントトレーニング

保護者が子どもをより理解し、望ましい関わり方ができるようにワークショップを中心にトレーニングを実施した。小学校の保護者にもチラシを配布し、案内した。

1 回目

テーマ 「ポジティブな親子関係づくり～ほめ上手になるには?～」

講師 医療福祉センターきずな 臨床心理士 岡井麻理子

2 回目

テーマ 「ポジティブな親子関係づくり～効果的な伝え方とは?～」

講師 医療福祉センターきずな 臨床心理士 岡井麻理子

(ウ) 保護者交流会

保護者が当センターの発達支援アドバイザーや相談員に気軽に相談したり、保護者同士が声をかけあったりできるように、年に6回、子どもたちのトレーニングと並行して場を設定した。

(エ) 先輩保護者との交流会

保護者が相談の場を広げることができるように、発達支援プログラムを経験した先輩保護者との交流会を設定した。

エ 保護者面談

保護者と教育相談員が子どもの1年間の様子や成長について共通理解を図り、今後の成長課題を考えるために、保護者面談を実施した。

(4) 関係機関との連携協働活動

継続的に、保健、福祉、医療、教育関係機関との協働・連携会議を通して、専門的な支援情報を共有し、多様な教育的ニーズに応じた発達支援の充実を目指し、連携を図った。

ア 加西市教育支援委員会

特別な支援が必要な園児、児童生徒への就学指導において、個々の状態に応じた支援環境が整えられるように、心身の状態、発達検査の結果や集団参加の状況など生活面や行動面の特性について、発達支援アドバイザーが専門的な意見や情報提供を行った。

イ 保健・医療・福祉・教育機関連携ケース会議

保健・医療・福祉・教育など、多様な関係機関との連携体制を整え、情報共有を図り、ケースごとに支援が切れないう調整を行った。子どもの認知発達の特性から二次障害を起こして学校・家庭生活の維持が困難となっている児童生徒の担任及び保護者に対して、指導や支援の対応方法について医療・福祉機関・その他の機関との連携を行った。

ウ 学校生活支援教員連絡会

各小・中学校に在籍する児童生徒の学級での適応状態について、学校生活支援に携わる教員と共通理解を図り、具体的な関わりや支援のあり方を一緒に検討した。加えて、本年度から、実際の通級指導の様子を見学し、指導を担当している教員に具体的な指導や課題設定について、発達支援アドバイザーが助言提案を行った。

エ こども園特別支援担当者会

個別的対応が必要な園児に関わる関係教職員と集団生活の状態や成長課題を共有し、指導方法などについて理解を図り、具体的な指導につながる手立て等の助言・提案を発達支援アドバイザーが行った。

(5) 成果と課題

本年度は、子どもの発達特性を理解し、その子どもを取り巻く家庭や学校、地域の支援機関等との連携を中心に発達支援に取り組んだ。

- ・発達相談では、子どもの発達特性の偏りを心配した相談が寄せられ、特に読み書きに関する相談が多く見られた。加えて、敏感さや鈍感さといった感覚特性により、学習や日常生活に支障が生じているケースも認められ、特性を一つ一つ丁寧に把握し、多面的な支援を

検討する必要性が高まっている。そのため、発達検査の結果をもとに、見立てと支援の方向性を教員と保護者で共有し、学校と家庭、さらに医療・福祉関係機関が連携して支援や指導にあたれるよう、共通理解の形成に努めた。

- ・学校訪問については、子どもが落ち着いて学習する機会を保障するために、具体的な手立てや支援方法についての検討を行ってきた。園訪問では、年長児を対象に就学に向けて、教員との共通理解を図り、早期の支援につなげられるようになった。本年度は外国にルーツをもつ子どもの相談が多く、就学後に『日本語の壁』による支援が増加すると思われる。
- ・発達支援プログラムでは、日常場面で自分がどのような気持ちになるのかを考え、それを伝えていく取組を繰り返し行った。気持ちを表す言葉と表情の一覧表から選ぶことから始め、回を重ねていくごとに一覧を見ずに表現することができるようになった。普段の何気ないやりとりの中においても、自分の思いを表現することが増え、会話が長く続くようになってきている。ゲームや課題に取り組む中でも、自分の意見を受け入れてもらう経験をする中で、次第に他者の意見も聞き、折り合いをつけられるようになってきている。また、発達支援プログラムに在籍している児童の通級指導において、目標と取り組みを共有することで、日常生活の一般化へつながった。通級指導担当教員や学級担任が発達支援プログラムを見学することで、子どもの実態や課題について話しあう機会を得ることができた。
- ・子どもの発達特性の偏りについては、早期発見と早期支援が引き続き重要である。今年度は、読み書きに関する検査依頼が増加した一方で、加西市近隣には読み書きのトレーニングを行う機関が少ない状況にある。そのため、読み書きに困難を示す子どもへのアプローチを検討していく必要がある。また、感覚特性への理解が広まりつつあることから、学校園に対しては研修や連絡会を通じて、感覚特性に応じた支援や環境調整の視点を共有していくことが求められる。今後も保護者ニーズを把握し、各関係機関と密に連携しながら支援の充実を図っていく。

4 教育相談

(1) 相談窓口

当センターでは、教育相談窓口の充実を図り、いじめや不登校、子育て、進路・学習など様々な教育に関する相談を受けることができるように、下記のとおり相談窓口を開設した。また、悩み相談電話を開設し、電話による相談も受け付けている。

種 類	内 容	曜 日	時 間	予約
通常教育相談	教育相談員による相談	月～金曜日	9:00～17:00	不要
特別教育相談	臨床心理士による教育相談	毎週木曜日	10:00～17:00	要
夜間教育相談	臨床心理士による教育相談	原則毎週月・金曜日	18:30～20:30	要
発達支援相談	発達支援アドバイザーによる教育相談	月～金曜日	9:00～16:00	要

(2) 相談受理状況

【令和8年3月末】

	区分	項 目	令和7年度	令和6年度	前年比較
相談 内容	電話	1 不登校	762	549	+213
		2 家庭・子育て	430	350	+80
		3 発達障害等	229	81	+148
	面接	1 不登校	2,090	1,771	+319
		2 発達障害等	1,143	1,044	+99
		3 家庭・子育て	588	724	-136
相談 対象者	電話	1 小学生	795	647	+148
		2 中学生	744	435	+309
		3 高校生	8	0	+8
	面接	1 小学生	2,142	2,132	+10
		2 中学生	2,039	1,838	+201
		3 幼児	56	40	+16
相談者	電話	1 関係機関等	704	538	+166
		2 教師	643	413	+230
		3 保護者	200	128	+72
	面接	1 教師	2,031	2,030	+1
		2 保護者	762	716	+46
		3 中学生	680	549	+131
相談 件数	電話		1,549	1,084	+465
	面接		4,290	4,044	+246
	総数		5,839	4,519	+1320

相談件数としては、電話・面談共に昨年度に引き続き、増加傾向にある。理由は、3名のSSWが学校と連携し、きめ細かに電話連絡・家庭訪問等の対応を取っている。拠点校以外に、小学生を対象にした相談にも対応できるようになったからである。また、SSWに加えて、発達支援アドバイザーや臨床心理士等による相談も認知され、多くの新規の相談申込にも対応することができた。

相談内容については、「不登校」が前年度同様一番多い。また、「発達障害等」や「家庭・子育て」についての相談も多くなっている。不登校や家庭的な課題のある児童生徒、発達に特性のある児童生徒のために、SSWや発達支援アドバイザーが学校と密に連絡をとり、連携して支援にあたることができた。

(3) 成果と課題

教育相談や学校支援に関わる当センター職員が、情報共有し、連携しながら関わることでできている。また、学校との連絡を密にし、教育活動を支援できている。教育相談をきっかけに子育て支援課等の関係機関に繋ぎ、専門的な支援が受けられるようになっている。

一方、支援が必要だと考えられる事案でありながら、相談者や相談対象者に困り感がなかったり、支援について合意を得られなかったりして、適切な支援に繋がられないケースがある。

家庭環境に課題を抱える児童生徒が増加しており、ストレスを感じ、集団への適応の難しさを感じている子どもがいる。また、不登校や発達支援等、様々な支援を必要としている保護者も増加している。今後も継続して、学校を中心とし、関係機関との連携をより密にし、より効果的な支援の方策を探り、相談者や相談対象者を支援していきたい。

5 青少年育成

(1) 加西市子ども会育成連絡協議会

本協議会は、各小学校区子ども会相互の連絡調整や情報交換、地域を基盤とした子どもたちの健全育成や育成者の支援・助成等を目的に理事会を開催し、「子どもの手による子ども会支援事業」、オセロ大会、気球搭乗体験などの事業を通して、子ども会活動の連携や活性化を図っている。

期日・場所	内 容	参加数
3/13 (木) 総合教育センター	第1回理事会 (新旧合同理事会) ・役割分担 ・事業計画 ・総会について	19
4 月	総会 (書面審議)	—
4/22 (火) 総合教育センター	第2回理事会 ・総会書面決議結果について ・全国子ども会安全共済会について ・「子どもの手による子ども会支援事業」について	13
6/4 (水) 社総合庁舎	北播磨地区子ども会連絡協議会総会	2
7/4 (金) 総合教育センター	第3回理事会 ・「子どもの手による子ども会支援事業」について ・オセロ大会について	13
8/3 (日) 善防公民館	第13回加西市子ども会オセロ大会	31
10/7 (火) 総合教育センター	第4回理事会 ・オセロ大会の反省 ・北播磨地区子ども会議について ・気球搭乗体験について	13
11/9 (日) ドウジウム	第16回北播磨地区子ども会議 「西脇市の地場産業『播州織』を知ろう」 ～播州織コースターづくり～	12
12/4 (木) 総合教育センター	第5回理事会 ・気球搭乗体験について ・次年度以降の北播磨地区子ども会議への参加について	13
1/15 (木) 総合教育センター	第6回理事会 ・気球搭乗体験について ・令和8年度北播磨地区子ども会議の実施内容について ・次年度の事業計画について	13
2/7 (土) 鵜野飛行場跡地	気球搭乗体験 ※当日の気象状況により中止	—
2/24 (火) 総合教育センター	第7回理事会 ・次年度会長および役員の選出 ・総会について	13

（２）地域ふれあい事業（かさいキッズふれあい事業）

小学校区ごとに、小・中学生を中心とした青少年の異年齢交流、異世代交流による地域活動を促し、思いやりの心、豊かな創造性や個性、さらに積極的な社会参加の態度を培うことを目的としている。地域における団体や住民と連携を図りながら青少年活動振興の基盤づくりを進め、青少年活動を核とした地域社会の活性化を進めている。

期日・場所	内 容
4/3（木） 総合教育センター	実務者会議 委託事業の目的、内容、手続き等
市内各小学校区で 右記の行事を計画	運動会・ふれあい玉入れ、七夕祭り、夏祭り、秋祭り、三世代ふれあい活動、クリスマス会、ご来光の集い、とんど、なわとび大会、ラジオ体操、夏休みの学校で遊ぼう、クリーンキャンペーン、音楽会、桃子野ふれあい教室、6年生思い出を作る会、標語コンクール等

（３）加西市青少年団体連絡協議会

本協議会は、4つの青少年団体（ジュニアリーダークラブ、ボーイスカウト、空手、F l e e p s）の指導者によって構成され、「サマーデイキャンプ（日帰りキャンプ）」や「新春のつどい」などの活動を通して、青少年の健全育成と青少年活動の活性化を図っている。

期日・場所	内 容	参加数
4/9（水） 加西市民会館	第1回理事会 ・総会に向けて	5
5/21（水） 加西市民会館	総会 令和6年度事業報告、会計報告 令和7年度役員選出、事業計画、会計予算 第2回理事会 ．サマーデイキャンプに向けて	5
6/11（水） 加西市民会館	第3回理事会 ・サマーデイキャンプについて プログラムの検討	5
7/16（水） 加西市民会館	第4回理事会 ・サマーデイキャンプについて タイムテーブル、役割分担、資材準備等	5
8/24（日） オークタウン加西	サマーデイキャンプ ・塩ビパイプ水鉄砲づくり ・水遊び ・野外料理 ・ペットボトルランタンづくり	30
9/17（水） 加西市民会館	第5回理事会 ・サマーデイキャンプの反省 ・新春のつどいに向けて	5
10/15（水） 加西市民会館	第6回理事会 ・新春のつどいについて チラシ案の作成、開催までのタイムテーブル	5
11/12（水） 加西市民会館	第7回理事会 ・新春のつどいについて 申請書類・準備物の確認	5

12/3（水） 加西市民会館	第8回理事会 ・新春のつどいに向けて 詳細な準備作業日程	5
11月中旬～12月上旬 小田製材所、グリム、栄光社等	協賛企業への挨拶回り	3
12/13（土） いこいの村周辺	クリーンキャンペーン「ポイ捨て撲滅大作戦」 門松用竹切り 「あなたが選ぶ2026年の漢字」選考会	4
12/20（土） オークタウン加西 鎮岩倉庫	新春のつどい資材借受、新春のつどい準備	4
12/31（水） アラジスタジアム 東側駐車場	新春のつどい準備 ・門松製作、会場準備	15
1/1（木） アラジスタジアム 東側駐車場	新春のつどい	350
1/10（土） 玉野町中池駐車場	とんど焼き	14
1/10（土） 鎮岩倉庫	新春のつどい資材返却	4
2/18（水） 加西市民会館	第9回理事会 ・事業報告、会計報告について	5

ア サマーデイキャンプ

オークタウン加西で小学1年生～6年生の児童17名が参加し、野外料理、塩ビパイプ水鉄砲づくり、水遊び、ペットボトルランタンづくりを行った。大きな怪我やトラブルもなく安全に終わることができたが、スケジュールがやや過密になり、時間が足りなかった。

イ 新春のつどい

アラジスタジアム東側駐車場を拠点にランドマーク展望台から初日の出を拝み、お年玉抽選会や「2026年の漢字」発表などの交流会を実施した。また、キッチンカーを誘致し、350名の参加者が新年に決意を新たにしました。



ウ とんど焼き

玉野町中池駐車場で、新春のつどいで使用した特大の門松や、市民が持ち寄った正月飾り・書初めなどを焚き上げ、一年間の家内安全・無病息災を願った。

（４）青年連絡会えんどれす

多くの方に世代を超えた地域のふれあいの場を提供し地域の活性化を図るとともに、青年が率先して町おこし活動を通して、若者が活躍できる街としてPRし、青年層の活性化につなげることを目的に活動している。本年度も「加西サイサイまつり」で、加西市役所議会棟を使用した「お化け屋敷2025」を開催することができた。当日には延べ774名（小学生未満56名含む）の参加者があり、大変盛況であった。

参 考 資 料



加西市立総合教育センター

教育講演会

1 テーマ

しんどさを抱える子ども達の理解と支援

2 講師

立命館大学 教授 宮口 幸治

3 主な感想

- ・子どものしんどさの原因を理解し支援することで、社会生活に適応できる能力を身に付けさせる使命が教師にはあると感じた。
- ・学習するための認知機能での困り感を見つめることが大切だと感じた。
- ・『できなくてもいい』を決めるのは本人だけ」を心にとめ、よき伴走者に徹しようと思った。



中堅教員研修講座

1 テーマ

中堅教員に求められる資質・能力

2 講師

元加西市立小学校長 本玉 義人

3 主な感想

- ・改めて自分の活動について法規等との関わりを考えて、実践していこうと思った。
- ・キャリアについて、具体的なお話を聞けてよかった。教師 10 年目の今にしかできない情熱を持って、教師生活を送りたい。
- ・「ワークライフバランス」を念頭に置いて行動していきたいと思った。



若手教員研修講座

1 テーマ

教師という仕事と正対する

2 講師

メキシコ合衆国グアナファト日本人学校
主幹教諭 青田 晋平 (宇仁小学校在籍)

3 主な感想

- ・センス（生き様）が大事だという話がとても印象に残った。人としての魅力が高められるように仕事にプライベートに充実させたい。
- ・メキシコからの距離を感じないほどの熱量と情報を受け取ることができた。
- ・今の自分の仕事に対する考え方を振り返る機会になった。



ベテラン教員研修講座

1 テーマ

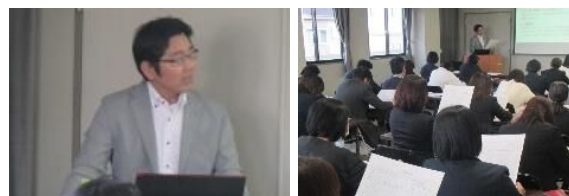
ベテラン教員に求められる役割
～後進の育成を中心として～

2 講師

兵庫教育大学大学院 教授 當山 清実

3 主な感想

- ・ベテラン教員に求められること、現在の教育界の課題を分かりやすく教えて頂けた。
- ・自身を振り返る機会になった。経験年数が多い者として、若い先生方に何が出来るか、考える機会になる研修だった。
- ・自分達の役割を再認識できた。後進の育成を頭におきながら日々の仕事に取り組みたい。



教育経営講座

1 テーマ

教育を楽しむ

2 講師

加西市教育委員会

教育長 菅野 恭介

3 主な感想

- ・ねらいをもってOJTを仕組んでいかれた話に感銘を受けた。自分流のOJTを見つめ直し、育ち合える仕掛けを探っていきたい。
- ・子どもたちが学びの瞬発力、持続力を喜びながら高められる取組を行い、深い学びに誘えるよう、できることを考えたい。



事務職員研修講座

1 テーマ

学校における整理・収納について

2 講師

元明石市立学校養護教諭

整理収納アドバイザー 加藤 真由美

3 主な感想

- ・職員室や消耗品の部屋の整理について大事なことが学べた。
- ・整理収納の基本やポイント等、分かりやすい説明と資料で大変勉強になった。
- ・整理整頓のノウハウを実体験に基づいて分かりやすく説明してもらった。実践してみたい。



管理職研修講座

1 テーマ

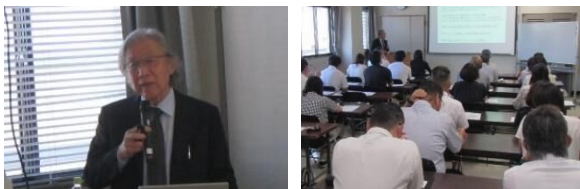
学校に求められる組織的生徒指導の方向性と課題

2 講師

関西外国語大学 教授 新井 肇

3 主な感想

- ・管理職として、組織的生徒指導をどう進めていくべきかを再確認することができた。
- ・具体例や組織的生徒指導のシステム化、チーム援助シート等を活用した可視化の方法を教えてもらい、今後生かしたいと思った。
- ・生徒指導提要改訂の経緯から、校内の体制づくりまで多くの学びがあった。



加西っ子の学びセミナー

1 テーマ

学力調査結果の分析および考察

2 講師

加西市教育委員会 学校教育課

主任指導主事 國野 大樹

3 主な感想

- ・学力・学習状況調査の結果から分かる課題と、RSがつながっていることが理解できた。両輪を理解し実践していきたい。
- ・RSトレーニングをはじめ、加西市全体として学力向上に努めていく必要性を感じた。
- ・RSトレーニングの重要性と、読解力の指導の大切さをあらためて学ぶことができた。



授業改善実践講座（１）

1 テーマ

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた
授業改善

2 講 師

兵庫教育大学 教授 山内 敏男

3 主な感想

- ・学ぶ意味がある授業にするために、ねらいの明確化、授業構成の工夫、振り返り、フィードバックを改めて見直したいと思った。
- ・見通しから振り返りまでの流れを明確にし、児童の分かったを言語化する時間をしっかり作っていききたいと思った。



授業改善実践講座（２）

1 テーマ

「学びに向かう力」の育成を促す授業改善

2 講 師

神戸学院大学 教授 大西 慎也

3 主な感想

- ・日常生活の中に、子どもが興味をもって深く考えたり、学びに向かったりするヒントがたくさん隠れていることに気づけた。
- ・教師自身が情報を集めたり考えたりし続けて教材を開発していくことの必要性を感じた。
- ・お雑煮文化と参勤交代の授業事例がとても面白く分かりやすかった。



ジョリーフォニックス 研修講座(1) (2)

1 テーマ

ジョリーフォニックス研修会
～英語の音と文字の関係～

2 講 師

ジョリーフォニックス公式トレーナー兼
ジョリーグラマー公式トレーナー 山下 桂世子

3 主な感想

- ・英単語を見ても読み方が分からない生徒は、「英語の文字と音をつなげる」という段階が踏めていないためだと分かった。
- ・英単語を覚えるのが苦手な生徒に、英語の音を意識させ、音素に分けて発音し、つづりを覚えさせていたが、そのやり方が正しかったと再認識できた。
- ・中学校の先生に小学校でのジョリーフォニックスの取り組みについて知ってもらうことができて良い機会となった。

教科指導講座（国語）

1 テーマ

つけたい言語能力を明確にした
国語科授業づくり

2 講 師

森ノ宮医療大学 教授 阿部 秀高

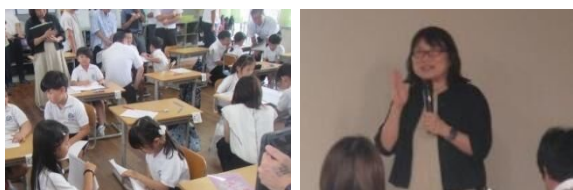
3 主な感想

- ・説明文の指導方法、評価のあり方、授業の分析等とても学びが多く有益な研修だった。
- ・傾聴の姿勢を育てるための子どもへの投げかけやテンポ感を実際にみることができ、大変参考になった。
- ・B基準とA基準の評価の違いが勉強になった。



教科指導講座（算数）

- 1 テーマ
児童の自律的な学びを促す
算数科の授業づくり
- 2 講師
兵庫教育大学 教授 加藤 久恵
- 3 授業者
富田小学校 教諭 古角 健太郎
- 4 主な感想
 - ・ 具体的操作活動や図からのアプローチ等、算数科で大切なことに気づくことができました。
 - ・ 教え合い活動の有用性など勉強になった。
 - ・ 援助要請は、主体的で能動的な学習であるということが印象に残っている。



教科指導講座（数学）

- 1 公開授業
単元 「 $y = ax^2$ の変化の割合」
- 2 講師
神戸大学 教授 岡部 恭幸
- 3 授業者
善防中学校 教諭 山本 裕樹
- 4 主な感想
 - ・ 「委ねる」ことの難しさ、それをするための単元デザインづくりが大事だと分かった。
 - ・ 数学科の授業として、「委ねる」事のバランスを取るのは非常に難しいと感じた。
 - ・ 考え方、概念を意識した授業づくりをしていかなければいけないと感じた。



教科指導講座（図工）

- 1 テーマ
子どもの表現活動をひろげる
図工科の指導について
- 2 講師
一般社団法人示現会兵庫支部長 高見 雅博
- 3 主な感想
 - ・ 図画工作に向かう教師の心構えと見立て方、子どもへの声掛けを学ぶことができました。
 - ・ 子どもの絵の発達段階、パレットや水入れの使い方、電動糸鋸の使い方等勉強になった。
 - ・ 発想を豊かに、想像を膨らませて作品を作る楽しさを感じることができた。



教科指導講座（理科）

- 1 テーマ
理科好きの生徒を増やすための手立てと工夫
- 2 講師
元加西市立中学校教諭 永長 英夫
- 3 授業者
北条中学校 教諭 北村 樹
- 4 主な感想
 - ・ 改めて、理科って面白いな、と思った。初心を忘れずに、研鑽を重ねたい。
 - ・ 永長先生の講座が非常に興味深かった。教師も理科好きであり、探究心を持ち続けたいと思った。



教科指導講座（保健体育）

- 1 実技研修
体づくり運動
- 2 講 師
加西市教育委員会 総合教育センター
指導主事 飯尾 太一
- 3 主な感想
 - ・勝手に子どもたちがやりたくなる仕掛けづくりが、改めて大切だと思った。
 - ・体づくり運動からも課題を抱える子どもへのアプローチができること知り、心強くなった。
 - ・運動に親しているいないに関係なく、体づくり運動の感覚統合機能は大切だと実感した。



小学校道徳授業実践講座

- 1 公開授業
資料「光輝の告白」
- 2 講 師
四天王寺大学 教授 杉中 康平
- 3 授業者
下里小学校 教諭 小岩 春菜
- 4 主な感想
 - ・授業の組み立て方が大変分かりやすかった。発問をしぼって問い返しを充実させ、道徳的価値に迫らせていきたいと思った。
 - ・杉中先生の講話がとても分かりやすく、道徳の教材研究の仕方がよく分かった。



教科指導講座（外国語・英語）

- 1 テーマ
外国語教育・英語教育指導力向上に向けて
- 2 講 師
ボーダーリンク株式会社
外国語指導助手（ALT）
- 3 主な感想
 - ・外国語の授業で大切なこと、Small Talk はどんなものかを知ることができた。
 - ・Small Talk の6つのポイントを知り、先生方と実践例を共有できた。
 - ・三船先生の教科書の使い方、教材の切り口と教えていく過程がとても勉強になった。
 - ・「教科書は教材である」「命を吹き込む」という言葉が印象に残った。
 - ・「世界のおはなし」やパノラマの活用の仕方を具体的に知ることができた。
 - ・他の学校の先生や他校種の先生と意見を共有できたことがよかった。

中学校道徳授業実践講座

- 1 公開授業
資料「二人の弟子」
- 2 講 師
兵庫教育大学 教授 谷田 増幸
- 3 授業者
泉中学校 教諭 清水 さくら
- 4 主な感想
 - ・道徳のねらいに迫る「問い返し」のタイミングや言葉について、学ぶことができた。
 - ・中学生の感受性の豊かさや、それが出せるような学級の雰囲気、今までの授業の積み重ねがすごいと思った。



教師力向上研修講座（１）

1 テーマ

学校で非認知能力と認知能力を
共に育てるために

2 講 師

環太平洋大学 特命教授兼

All HEROs 合同会社代表 中山 芳一

3 主な感想

- ・非認知能力のこと、非認知能力を育むための教師のすることがとても分かりやすかった。
- ・教師は児童が親の次に日常的に影響を受ける大人なのだ、ということに改めて自覚を持って日々精進したいと思う。



教師力向上研修講座（２）

1 テーマ

対話的な学び、協働的・協同的な学びを促す授業づくり、学級づくり

2 講 師

兵庫教育大学 教授 真田 穰人

3 主な感想

- ・協同学習の基礎には、安心・安全、共感的で、自己存在感が感じられる授業や学級づくりが大切であると思った。
- ・課題設定から個人思考までを協同学習ということ意識して、授業づくりをしていきたい。
- ・協同学習を通して、社会で生きる力を身につけられる授業づくりに取り組んでいきたい。



学力向上研修講座

1 テーマ

「けテぶれ」の考え方を生かした授業改善

2 講 師

葛原学習研究所 所長 葛原 祥太

3 主な感想

- ・全ての授業で主体感をもたせ、将来的に自力で判断して行動できる学力や生き方を目指した教育に感銘を受けた。
- ・子どもたち一人ひとりが人生の主体者だということを忘れずに、主体性を育むことができる授業をしていきたい。
- ・昨年度に引き続き受講してよかった。



生徒指導講座

1 テーマ

「生徒指導提要（改訂版）」が示す これからの生徒指導の進め方

2 講 師

関西外国語大学 教授 新井 肇

3 主な感想

- ・あいまいな理解や、自分の感覚に頼って生徒指導をしてしまっていたので、理論的に整理することが出来て良い学びになった。
- ・考え方や視点をバージョンアップしていかなないと、益々対応が難しくなると感じた。
- ・授業が充実したものになるように、授業力の向上を目指したい。



Google Workspace 実践講座 ～初級編～

1 テーマ

Google Workspace を活用したスタートアップ
研修

2 講師

株式会社エージェント 須藤 雄亮

3 主な感想

- ・初回らしく丁寧に説明してもらえたことで、分かりやすかった。困ったらすぐに質問できて助かった。
- ・Classroom のロックモード&採点タブ、絵文字のショートカット、ドキュメントの音声入力&翻訳機能等勉強になった。
- ・実践形式で分かりやすかった。
- ・Google for Education の概要が分かってよかった。
- ・基本的なことから豆知識まで詳しく教えていただき、とても参考になった。

Google Workspace 実践講座 ～中級編～

1 テーマ

Google Workspace を活用したコア研修

2 講師

株式会社ストリートスマート 佐藤根 拓海

3 主な感想

- ・Google Workspace の色々な使い方を教えてもらって、とても参考になった。クラスルームのストリームをつかって、動画を添付してみたいと思った。
- ・ふだん使わないことや、忘れていたことを思い出すことができよかった。
- ・児童画面と教師画面の両方の操作体験ができ分かりやすかった。
- ・日常からあまり ICT を使用する授業を行っていないので、今後自身のスキルアップも込めて積極的に使用していこうと思った。
- ・丁寧にわかりやすい説明でとても良かった。

Google Workspace 実践講座 ～上級編～

1 テーマ

Google Workspace を活用した活用力向上研修

2 講師

株式会社ストリートスマート 森本 敦史

3 主な感想

- ・Google アプリの活用例を他の先生方と交流する時間があり、イメージがわいた。
- ・Google Workspace のいろいろな機能を知ることができて良かった
- ・普段あまり使えていなかったのが、今回の研修で教えてもらったアプリを 2 学期は使っていきたいと思った。
- ・それぞれのアプリのよさや強み、活用場面の実践例が分かってよかった。
- ・Google サイトは初めて知った。YouTube をスライドに貼り付ける際に時間指定できることなど勉強になった。

特別支援教育研修講座（1）

1 テーマ

加西特別支援学校高等部の進路について

2 講師

加西特別支援学校 主幹教諭 堀尾 勝彦

3 主な感想

- ・高等部卒業後の生徒の進路を具体的に知ることができ、保護者にも正しい情報を知らせることができると思った。
- ・就労後の仕事内容を動画で見られたり、実際に作業を体験したり、とても勉強になった。
- ・就労につながる力を身につけていけるように小学校のうちから指導、支援をしていきたい。



特別支援教育研修講座（２）

- 1 テーマ
凸凹のためのおとなのこころがまえ vol.2
- 2 講 師
はりまこどものこころ診療所
院長 三木 崇弘
- 3 主な感想
 - ・事例を通して困り感のある児童について具体的に考えることができた。ケースについて話し合うのも活気があって良かった。
 - ・子どもの具体的な対応と見立てなど、詳しく教えていただき分かりやすかった。
 - ・自分で考えることの大切さ、熱意をもって生徒にかかわっていく必要性を感じた。



特別支援教育研修講座（３）

- 1 テーマ
忘れ物が多い、整理整頓が苦手な児童生徒の理解と対応
- 2 講 師
ひょうご発達障害者支援センター クローバー
加西ブランチ 相談支援員 川野 みか
- 3 主な感想
 - ・困り感の背景をしっかりと見極めて寄り添うことが大切である。小さな「できた」を積み重ねることの大切さを知ることができた。
 - ・生徒を見て、今の状況を把握・理解していくことが大切だなと改めて思った。



児童生徒支援講座（１）

- 1 テーマ
支援を要する子どもの個別対応について
- 2 講 師
総合教育センター
発達支援アドバイザー 中川 宗英
- 3 主な感想
 - ・「気づく・分かる・できる」の支援、支援の四則演算、神経心理ピラミッドの話等これまで行っていたことを整理することができた。
 - ・支援を要する子どもへの個別対応の引き出しが増えた気がした。
 - ・誰もが輝ける力があること、「この子らを世の光に」が心に沁みました。



児童生徒支援講座（２）

- 1 テーマ
毎日の学級での指導に活かすポジティブ行動支援（PBS）
- 2 講 師
近畿大学 准教授 大対 香奈子
- 3 主な感想
 - ・行動のメカニズムやPBSについて、詳しく具体的にとても分かりやすかった。
 - ・個人攻撃の罠にハマらないよう、「どこを褒めようか」という視点を大切にしたいと思う。
 - ・応用行動分析を活用したABCのメカニズムについて知識を深めることができた。



幼児教育研修講座

1 テーマ

特別な配慮を必要とする子どもたちも安心して生活できるクラス運営について

2 講師

神戸親和大学 教授 佐藤 智恵

3 主な感想

- ・ 困り感が保育者側の困り感になっていないかを考えながら、みんなが、笑顔で楽しい園になるよう頑張っていきたいと思った。
- ・ 自分の当たり前を見直し、気持ちにゆとりを持って、児童が楽しく安心して学校生活を過ごせるよう支援をしていきたい。
- ・ 「冷静な頭と温かい心」で、子どもに寄り添い共感し、肯定的に捉えて支援していきたい。



ゲートキーパー研修

1 テーマ

子どもの心と気づき、その対応について

2 講師

NPO法人国際ビフレンダーズ

大阪自殺防止センター 理事長 北條 達人

3 主な感想

- ・ 因果律に縛られて、生徒の感情に巻き込まれていたと思う。とても有益な研修だった。
- ・ 解決することを前提に話を聞くことが多かったが、聞くだけでいいということに安心した。
- ・ 思春期の子は表現しにくい感情があることを知り、これからはそのきっかけを作っておける側にまわれるようになっていきたい。



生成A I 利活用研修（1）

1 テーマ

生成A I とは何か ～概論編～

2 講師

コニカミノルタ 副部長

LinksAI 合同会社代表 松末 育美

3 主な感想

- ・ 生成A I の基本的な扱い方が網羅しており、初心者にもわかりやすい内容であった。
- ・ 教師のワークライフバランスにつながるものであると感じた。
- ・ 活用できそうなツールがこんなにもあることを知った。使えるものは使い、校務のスリム化につなげたいと思う。
- ・ 著作権や個人情報保護といった法的・倫理的な側面、生成される情報の正確性や偏りといったA I 特有のリスクについても具体的に学ぶことができた。

生成A I 利活用研修（2）

1 テーマ

校務における生成A I の利活用について
～実践編～

2 講師

コニカミノルタ 副部長

LinksAI 合同会社代表 松末 育美

3 主な感想

- ・ 実際に操作しながら具体的な使い方が分かったので、使ってみたいと思った。
- ・ G e m って何かな？と思っていたので知ることができて良かった。
- ・ 今回の応用編で、より具体的に生成A I の利用の仕方を研修でき、分かりやすかった。
- ・ 生成A I のルールとリスクを理解して、正しく使っていくことが大切だと思う。
- ・ A I はあくまで補助ツールの一つで、最後は人間が判断するものであると再認識した。

加西市教育情報 セキュリティポリシー研修

1 テーマ

改訂版 加西市教育情報セキュリティポリシーについて

2 講師

加西市情報課 主事 東郷 亮太

3 主な感想

- ・普段使用している機器や端末、アプリや情報等について使い方を見直す機会になった。
- ・情報管理の重要性について考えることができた。日々扱っている情報の重さをしっかりと理解し、注意して扱っていきたいと思う。
- ・児童に関する情報等は気をつけているつもりだが、さらに慎重に扱うべきものだと感じた。
- ・セキュリティポリシー改訂の必要性や変更内容、遵守の重要性について理解できた。
- ・加西市のセキュリティポリシーを遵守し、安心・安全に情報端末を活用していきたい

学校運営協議会新任委員研修

1 テーマ

学校運営協議会について

2 講師

加西市教育委員会 総合教育センター
地域コーディネーター 本玉 義人

3 主な感想

※アンケート実施せず



令和7年度

インターネットトラブルから子どもを守るために

加西市立総合教育センター



毎年、加西市内の小中学生にアンケートを実施しています。最近のインターネットやSNS等の使用状況を把握し、子どもたちが正しく使い、依存やトラブル、犯罪の被害者にも加害者にもならないように、みんなで考えましょう。

SNS・オンラインゲームで…

- ・長時間の使用(いつでも、どこでも可能)
- ・不適切な投稿(悪ふざけ、ノリや勢いで)
- ・個人情報に関わる画像や動画の投稿
- ・盗撮、生成AIを使った合成写真の拡散
- ・SNS上で知り合った人と出会い、トラブルに →【闇バイトへの入り口】
- ・ゲーム内での課金やギフトの強要
- ・違法行為アカウントとの接触による金品授受

子どもが巻き込まれると

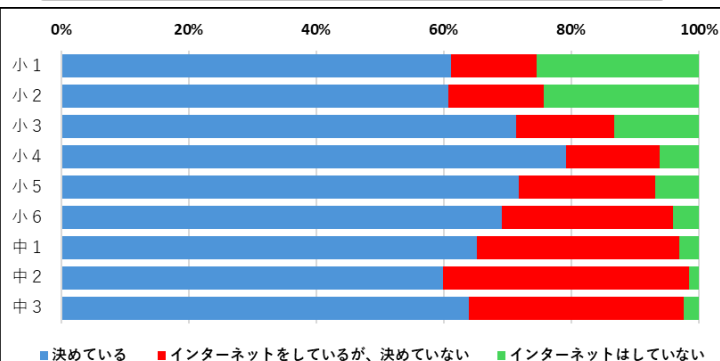
- ・被害者にも加害者にもなる可能性
⇒暴言、脅迫、侮辱罪、撮影罪等
- ・ストーカー、誘拐、性犯罪の被害
- ・家出や金銭トラブルの原因
- ・心や体にも悪影響
⇒依存症、睡眠不足、脳への悪影響
家庭内暴力、ひきこもり等
- ・進学や就職にも影響
- ・闇バイトへの勧誘、強要



そんなつもりじゃ
なかったのに…

加西っ子のインターネット端末の使用状況と家庭で気をつけること
(令和7年度加西市小・中学生インターネット等の使用に関するアンケート結果より)

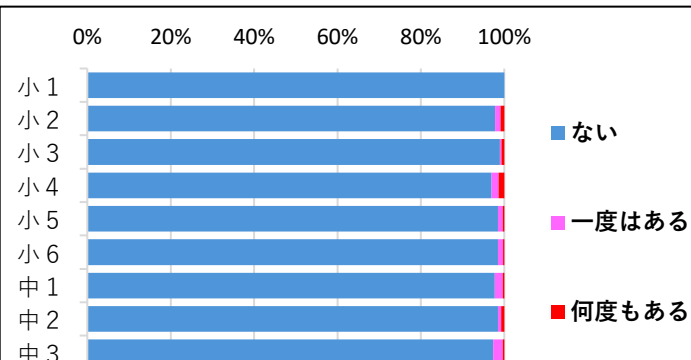
インターネット使用に関するきまりや約束



<保護者へのお願い>

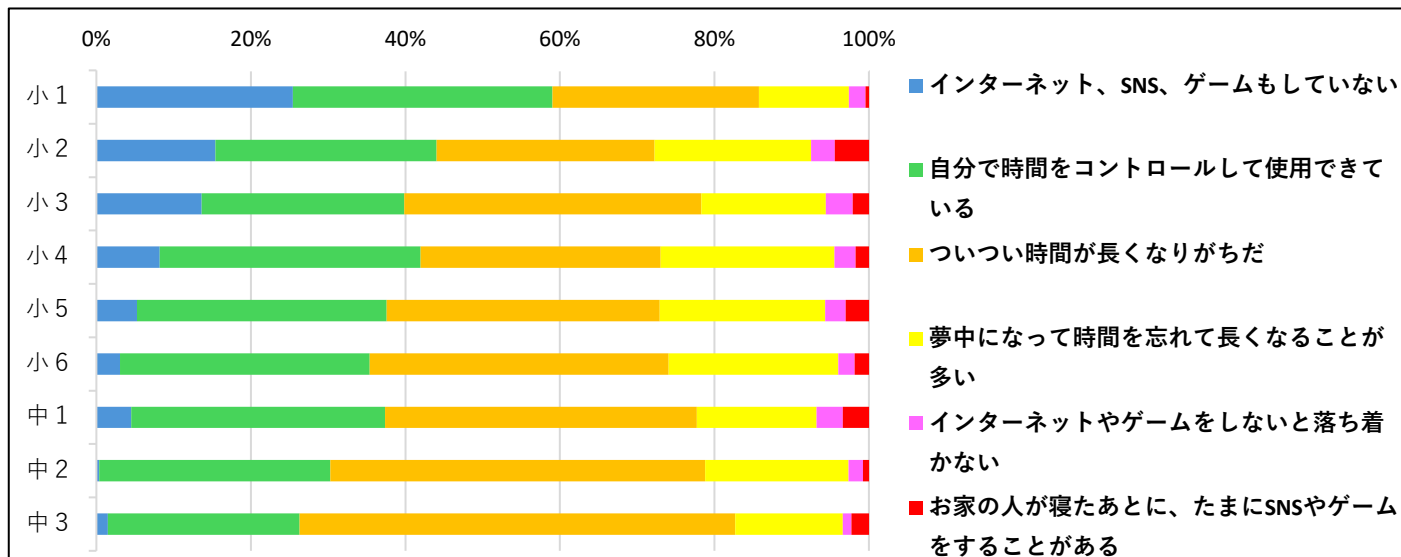
- ☐ 子どもの端末所持と使用に関して関心と責任をもってください。
- ☐ フィルタリングやペアレンタルコントロールは我が子を守る最善の術です。
- ☐ きまりや約束をつくる話し合いは、親子のコミュニケーションのきっかけです。

インターネット上の知らない人と出会う約束の経験



小学校低学年でも、SNSやインターネット上で出会う約束を何度もしている子どもや出会っている子どもがいます。インターネット上の出会いは、危険が多く、その代償は大きいです。**保護者が責任をもって、管理することが大切です。**

インターネット使用の状況



○小2以上の学年の半数以上が、自分で時間をコントロールできていない状態にあります。その悪影響を学習面・生活面から大人が伝えていくことが大切です。

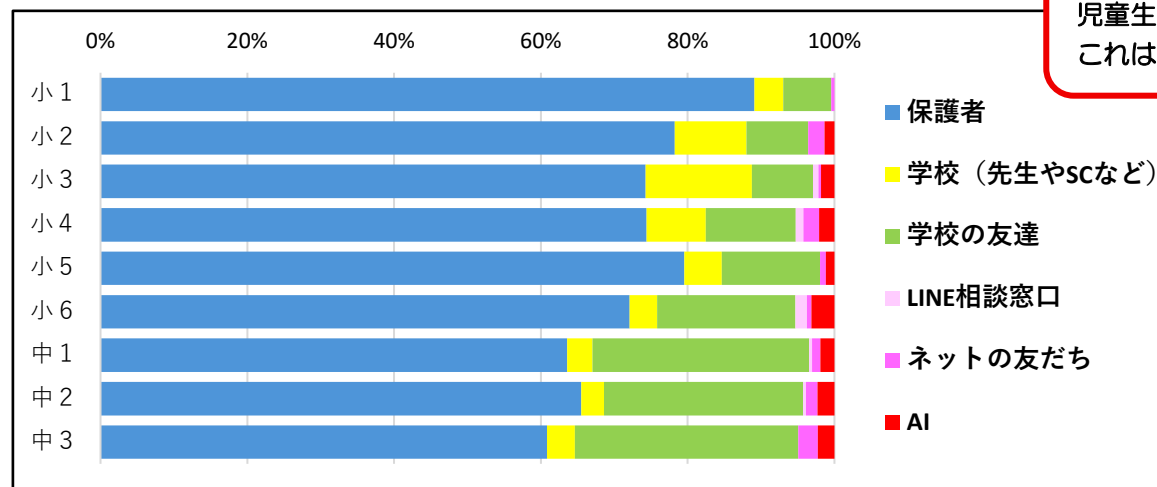
○1日に1～2時間くらいのインターネット使用が適切といわれます。それ以上使用している子どもは“依存傾向”にあります。

○脳をリフレッシュさせるためには、1日に小学生で9時間、中学生で8時間の睡眠が必要だといわれています。睡眠時間が短いと、学習や運動の効果も上がりません。

◎長時間のインターネットの使用は、脳の前頭葉に悪影響を及ぼすといわれています。



ネットトラブル発見時の相談相手



生成AIに相談する児童生徒もいます。これは危険な兆候です。



- ・ネットトラブルを発見したときは、保護者や身近な大人に相談するように伝えていくことが大切です。
- ・生成AIの情報には、真実ではないことも含まれています。
- ・子どもが困ったときに相談できる関係をつくっておきましょう。

家庭でできること

1. 家庭で約束やきまりを決める

スマートフォンやタブレット購入後の3ヶ月以内に8割の子どもが、何らかのトラブルに巻き込まれているというデータもあります。

購入前にきまりや約束を話し合っておくことが大切です。

インターネットとゲームのつきあい方・ルールづくり3つのポイント

(1) 家族で話し合う

必ず子どもと保護者で話し合い、お互いに納得したルールをつくりましょう。
また、話し合いを機に、子どものルールだけでなく、家族みんなのルールについても話し合ってみましょう。家族で話し合ってお決めたルールであれば、子どもは「守ろう」という気持ちになります。

(2) 定期的に見直す

子どもを取り巻く環境の変化に応じて、定期的にルールを見直しましょう。

(3) 制限できるツールを活用する

危険なサイトやアプリをブロックしたり、インターネットの利用時間を制限したりできる「ペアレンタルコントロール」を上手に活用しましょう。

「兵庫県HP「話し合ってみよう！ネットとゲームのルールづくり」より」



ご家庭でお子様と、インターネットやゲームの利用について話し合ってみてはいかがでしょうか。



※下記URL（兵庫県HP内）からワークシートはダウンロードできます。

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/kk16/documents/smaphrulepointr6.pdf>

2. フィルタリングやペアレンタルコントロールを利用する

- | | |
|---|--|
| ☐ 有害・不適切なサイトへのアクセス制限 | ☐ アプリやサービスの課金・購入の制限 |
| ☐ アプリ等でのダウンロード制限 | ☐ 使用時間の制限 |
| ☐ 年齢にふさわしくないゲームの起動を制限 | ☐ 他の人とのコミュニケーションを制限 |
| ☐ 起動利用状況の把握 | ☐ どこでもフィルタリングの設定が可能 |
| ☐ 年齢に合わせたフィルタリングの強度の設定 | |

フィルタリングサービスやペアレンタルコントロール機能の設定方法

※詳細については、使用端末やゲーム機のホームページ等でご確認ください。QRコードから確認できます。

①携帯電話事業者が提供するスマホのフィルタリングサービス

○あんしんフィルター



- ・各事業者のHPよりアプリをダウンロード
 - ・保護者のスマホ等から設定可能
- ※詳細はHPで確認

【NTTドコモ】



【au】



【Softbank】



【楽天モバイル】



下のQRコードからダウンロード可能

②OS事業者が提供するペアレンタルコントロール機能

○Apple (iPhone, iPad) の場合



- ・スクリーンタイム
- ※設定アプリからスクリーンタイムを選択して設定



○Google (Android) の場合



- ・Googleファミリーリンク
- ※アプリをダウンロード
Chomebookなどの
Googleの端末にも設定可能



③ゲーム機のペアレンタルコントロール機能

○NintendoみまもりSwitch

- ・スマホにアプリをインストール
またはサイトから設定



○PlayStation®Safty (保護者向け)

- ・サイトから設定



☆お子様からインターネットのこと(不適切な投稿、トラブル、いじめ等)で相談を受けられ、対応が難しいと判断された場合は、迷わず下記へご相談ください。

相 談 先	電 話 番 号
兵庫県警察本部サイバー犯罪対策課	078-341-7441(代表)
兵庫県警察本部 少年相談室ヤングトーク	0120-786-109(平日9時～17時半)
ひょうごっ子悩み相談センター	0120-0-78310(365日・24時間)
こころの健康電話相談専用ダイヤル (県精神保健福祉センター内)	078-252-4987 火～土 9:30～11:30、13:00～15:30(祝日除く)
ほっとらいん相談(青少年のための総合相談)	078-977-7555 (月・水・土 10:00～12:00、13:00～16:00)
加東こども家庭センター	0795-27-8250(平日9時～17時)
加西市消費生活センター(※課金のことで困ったら)	0790-42-8739(平日9時～16時半)
加西市立総合教育センター相談窓口	0790-42-3730(平日9時～17時)